

今後の望ましい学校教育のあり方について
報告書（答申）

令和4年1月

長瀬町学校のあり方検討委員会

目 次

はじめに	1
1. 長瀬町の小中学校の現状と将来推計	2
(1) 児童生徒数の現状と将来推計	2
(2) 学校規模	3
(3) 『公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引』について	3
(4) 通学距離について	4
(5) 学校と地域の関係	5
(6) 学校施設の状況について	5
2. 学校規模に起因する利点・課題	6
(1) 小規模校の利点と課題	6
(2) 町内小中学校の現状における利点と課題	7
3. 学校教育に関するアンケート調査結果	10
(1) 調査対象及び実施方法	10
(2) 調査期間	10
(3) アンケートの構成	10
(4) 回答者数とその属性	11
(5) 集計結果	11
(6) まとめ	12
4. 長瀬町の児童生徒にとって望ましい教育環境	13
5. 学校規模適正化及び学校規模に起因する課題を軽減する方法	13
(1) 小規模校を適正化する方法	13
(2) 小規模校の課題軽減の手法	14
6. 小中学校の望ましい学校のあり方に関する基本的な考え方	15
資料編	16
○諮問書（写）	
○長瀬町学校のあり方検討委員会設置条例	
○長瀬町学校のあり方検討委員会委員名簿	
○長瀬町学校のあり方検討委員会開催経過	
○アンケート集計結果（保護者＋住民）	

はじめに

長瀬町は町制を施行した昭和15年に野上町となり、昭和18年に樋口村、白鳥村の一部と合併し、新しい野上町になり、昭和47年に長瀬町に町名変更しているが、その後は町村合併や学校の統廃合という大きな節目を迎えることなく、現在に至っている。

自然豊かな地域で、環境に恵まれ、小学校2校、中学校1校では「地域とともにある学校」を目指して、地域住民との深い関わりの中で、教育活動に取り組み、児童生徒がすくすくと成長し、学びを深めている。

しかしながら、日本は少子高齢化社会を迎え、人口減少は避けられず、本町においても人口減少から逃れられない状況であり、それに伴い児童生徒数の減少による学校の小規模化が進み、全ての学校が小規模校となっている。

「学校の小規模化」は、学校のクラス数の減少や複式学級の導入など、学校における教育活動、学校運営など、様々な面に影響を及ぼすことが懸念されている。

町の現状としては、小学校2校が小規模化により、多くの学年で単級となっている。特に、長瀬第一小学校（以下「第一小学校」という。）では1学級に40人近い児童が在籍し、コロナ禍において、密集を避けた環境で学ぶために、広さの確保できる特別教室に移動するなど、普通教室での学習が進められない状況に対し、長瀬第二小学校（以下「第二小学校」という。）においては、児童数の減少が進み、複式学級の導入が迫っているが、コロナ禍においては、制限される活動がほとんどない。このように同じ町内に設置される小学校において、学習における学習環境の格差が一つの課題としてあげられると同時に、第一小学校における通常学級の一人あたりのスペースが第二小学校の半分以下であり、教員の受け持ち児童数は倍以上となることなどもあげられる。

義務教育段階の学校は、児童生徒の能力を伸ばしつつ、社会的自立の基礎や社会における基本的な資質を養うことが目的とされている。このため、単に教科等の知識や技能を習得させるだけでなく、集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性を身につけることが重要であるといわれており、第二小学校での複式学級の設置は教育上の観点、学校運営上の観点からも適正規模化を図る必要がある。

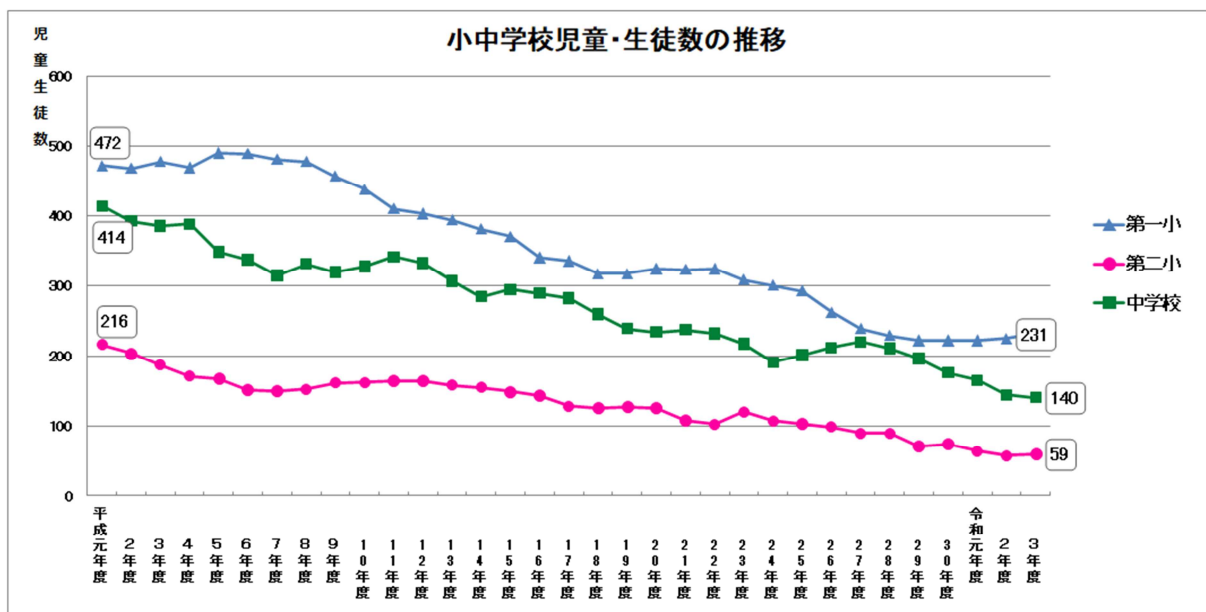
また、学校施設の多くは、昭和40年代から50年代に建設されており、建設から40年以上を経過している。長瀬町公共施設長寿命化計画において、老朽化した校舎などの施設を大規模改修し長寿命化を図り、長期にわたり活用していく予定であるが、児童生徒数の減少が進む中、学校の統廃合や耐用年数を迎えることによる校舎等の建替も検討する必要があるが出てきている。

こうした状況も含め、教育委員会からの諮問に対し、児童生徒にとって望ましい教育環境について、検討委員会で様々な意見を出し合いながら検討を進め、検討結果を答申として報告するものである。

長瀬町学校のあり方検討委員会

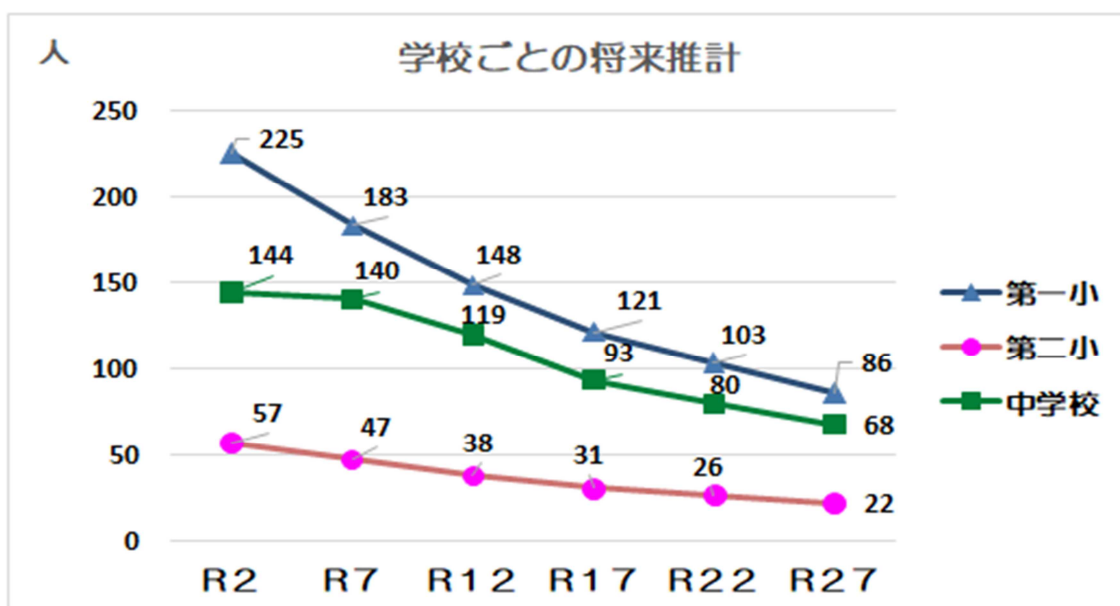
1. 長瀨町の小中学校の現状と将来推計

(1) 児童生徒数の現状と将来推計



平成元年度～令和3年度までの児童生徒数の推移を表したグラフである。30年余りの間に第一小学校は52%減、第二小学校は74%減、中学校は65%の減となっている。

令和3年度の普通学級1クラスあたりの平均人数は、中学校22.8人、第一小学校27.9人、第二小学校9.2人となっている。



令和7年度までは現在の児童生徒数をもとに試算し、令和12年度以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地区別将来人口推計（平成27年度国勢調査）」をもと

に教育委員会で試算した推計である。20年後の令和22年度には各校ともに令和2年度の半数以下に減少すると見込まれ、さらに小規模化が進む見込みである。

(2) 学校規模

令和3年度の町内の学校規模は、学校教育法施行規則によると、次の通りとなる(学級数については、いずれも普通学級数)。

令和3年度の小学校の総学級数は14学級となっており、これを小学校別の学級数による学校規模別に分類すると、すべて小規模校となっている。

小学校の学級数による学級規模の分類

学校規模の分類	小規模校	適正規模校
総学級数	6～11	12～18
現状 14学級	長瀬第一小学校(8) 長瀬第二小学校(6)	—

次に令和3年度の中学校の総学級数は6学級となっており、これを中学校の学級数による学校規模別に分類すると、小規模校となっている。

中学校の学級数による学級規模の分類

学校規模の分類	小規模校	適正規模校
総学級数	6～11	12～18
現状 6学級	長瀬中学校(6)	—

今後はさらに小規模化が進み、第二小学校は、過小規模校(複式学級編制)になることが見込まれている。

(3) 『公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引』について

文部科学省が平成27年1月策定した『公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引』(以下『手引き』という)によると、義務教育段階の学校では、単に教科等の知識や技能の習得だけでなく、集団の中で多様な考えに触れ、切磋琢磨することを通じて、思考力や表現力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要であり、そうした教育を十全に行うために、一定の規模の児童生徒集団の確保や、経験年数、専門性等のバランスのとれた教職員集団の配置が望ましく、一定の学校規模を確保することが重要としている。

また、同時に、小・中学校は、児童生徒の教育のための施設であるだけでなく、各地域のコミュニティの核としての性格を有することが多く、防災、保育、地域の交流の場等、様々な機能を併せ持っており、まちづくりのあり方と密接不可分であ

る、としている。

このような学校が持つ多様な機能にも留意し、学校教育の直接の受益者である児童生徒の保護者や将来の受益者である就学前の子供の保護者の声を重視しつつ、地域住民の十分な理解と協力を得るなど「地域とともにある学校づくり」の視点を踏まえた丁寧な議論を行うことが望まれるとしている。

適正規模・適正配置については、法令上、学校規模の標準を小・中学校ともに「12学級以上18学級以下」が標準とされているが、「特別の事情があるときはこの限りでない」という弾力的なものとなっており、学級数に加え、1学級当たりの児童生徒数や学校全体の児童生徒数、将来推計などの観点も合わせて総合的な検討を行うことが求められている。

その際、小学校では5学級以下、中学校では2学級以下の複式学級が存在する規模である場合は、「教育上の課題がきわめて大きい」、小学校で6学級、中学校で3学級のクラス替えができない規模の場合は、「教育上の課題が大きい」と認識されており、いずれの場合も「適正規模に近づけることの適否を速やかに検討する必要がある」と指摘されている。

また、通学距離が、小学校でおおむね4km以内、中学校ではおおむね6km以内とする従来からの目安に加え、通学バス等の適切な交通手段が確保でき、通学距離や時間の増加に伴うデメリットが解消される場合には、「おおむね1時間以内」を一つの目安として新たに設定している。こうした前提の上で、地域の実情や児童生徒の実態に応じて判断することが適当であると記載されている。

(4) 通学距離について

上記のとおり、『手引き』によると、適当な通学距離は小学校でおおむね4km以内、中学校ではおおむね6km以内とされている。

本町の小学生の現状をみると、最も長い距離は、第一小学校では3kmの上長瀬・井戸下郷地区で徒歩45分、第二小学校では2.5kmの杉郷・辻区で徒歩40分となっており、2.8kmの矢那瀬地区では、交通事情などを考慮し、町の送迎車により通学している。

中学生の現状をみると、徒歩による通学の他に、自転車・電車を利用した通学が認められているため、最も長い距離の矢那瀬地区の生徒は、自宅から波久礼駅までは自転車、その後は電車を利用し、およそ9kmを45分かけて通学している。

通学距離については、児童生徒が体力的・精神的に疲労し、学校生活における学習意欲や様々な活動に支障が出ないように、十分考慮するほか、通学時の安全確保についても、児童生徒の生命に直結することであり、特に留意する必要がある。

今後、学校の再編が行われることになれば、通学区域が広がり、通学路の見直しや遠距離通学になることによるスクールバスの運行など、交通手段の支援策の検討が必要である。

(5) 学校と地域の関係

学校は地域社会とも深い関わりがあり、地域コミュニティや地域防災の拠点などの役割も担っている。

また、地域の方々の協力による教育活動の充実に向けた取組が行われており、特に第二小学校においては、学校運営面において、地域の教育力が大きく影響している。

今後、学校の再編などにより、統合を進めることになった場合、地域との関わりが希薄になり、地域コミュニティの機能低下が懸念されることや、学区を越えた新しい地域コミュニティの形成が必要になってくる。

地域と学校との関わりや地域コミュニティに十分配慮をすることが重要であり、地域や住民の意見を聞きながら、共通理解を深める必要がある。

(6) 学校施設の状況について

長瀬町において、学校施設を始めとした公共施設の老朽化に伴う維持・更新費用の増加が見込まれることを踏まえ、施設全体の状況を把握し、長期的な視点をもって、施設の更新や維持保全、長寿命化等の施策を計画的に行うこととして、「長瀬町公共施設長寿命化計画」が策定されている。

人口減少が進み、町税収入が伸び悩み、財政状況が更に厳しくなることが予想されることから、学校施設も含めた公共施設の更新等に係る財政負担を軽減し、負担の平準化をするとともに、最適な配置を実現することが望まれる。

長瀬町では、学校施設の多くが昭和50年代に建設され、築40年以上経過しており、これらの長寿命化や改修、建替費用が町の予算の多くを占めることになり、将来に渡り、町民が大きな負担していくことが予想される。

こうした課題も念頭に、施設整備面からも長期的な展望を見据え、学校のあり方を検討する必要がある。

	施設名称	棟名称	建築年度	経過年数	耐用年数	延床面積 (㎡)
1	長瀬第一小学校	校舎	1977	43	60	4007.00
		体育館	1978	42	60	1202.00
2	長瀬第二小学校	校舎	1976	44	60	1814.00
		体育館	1977	43	60	1002.00
3	長瀬中学校	校舎	1972	48	60	3409.00
		校舎(特別教室)	1979	41	60	647.00
		体育館	1970	50	60	838.00
		剣道場	1984	36	60	247.00
4	学校給食センター	共同作業所	1980	40	60	516.00

※学校施設のうち、予防的な保全を実施する施設として、長瀬町公共施設長寿命化計画に位置づけられた施設。経過年数は2020年を基準としている。

2. 学校規模に起因する利点・課題

本町の将来の児童生徒数を考慮した場合、学校の大規模化の可能性は少なく、今後さらに小規模化していくことが見込まれる。

小規模校の利点と課題についてまとめるとともに、町内小中学校の現状における利点と課題について、以下のとおりまとめた。

(1) 小規模校の利点と課題

	利 点	課 題
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・子供一人ひとりの性格や学習状況等が把握でき個に応じたきめ細やかな指導がしやすい。 ・学校行事や部活動等において、児童生徒一人ひとりの個別の活動の機会を設定しやすい。 ・発表やリーダーになる機会が多くなる。 ・施設や備品を余裕をもって使うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習において、多様な考え方やものの見方に触れる機会が少ない。 ・部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。 ・中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい（免許外指導の教科が生じるなど）。 ・班活動やグループ分けに制約が生まれる。 ・体育科の球技や音楽科の合唱・合奏等の集団学習に制約が生まれる。
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ・上級生が下級生の面倒を良く見るなど、学年を超えた仲間意識が強くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス替えが困難なことから、人間関係や相互評価等が固定化しやすい。 ・お互いに切磋琢磨する機会が少なく、競争心や向上心、社会性やコミュニケーション能力を育てにくい。
学校運営面	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の方々と連携して子供の教育ができる。 ・全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員一人に複数の校務分掌が集中しやすい。 ・教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい。 ・教員の力量が培われにくい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・地域からの支援など、地元とのかわりが密になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動等における保護者一人あたりの負担が大きくなりやすい。

(2) 町内小中学校の現状における利点と課題

	利 点	課 題
長瀬第一 小学校 通常学級 8学級	<ul style="list-style-type: none"> ・学習面においては、多様な意見に触れることで、考えを深めることができる。 ・運動会などの学校行事や音楽集会等の集団の活動で活気あふれる活動ができる。 ・様々な種類のクラブや委員会を設置することが可能で、児童にとって選択の幅が広がる。 ・児童同士で切磋琢磨する機会が多くなり、社会性や協調性、たくましが育まれやすい。 ・バスで校外学習に出かける際、児童数が多いので、1人あたりの保護者負担額が抑えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が児童一人ひとりの状況を把握することが難しい。 ・児童一人あたりの個別指導に充てられる時間が少ない。 ・児童一人あたりの活動回数、活動機会が少なくなる。 ・3年生以上では、1学級の児童数が33～39名になるため、宿題のチェックやテストの採点などの学級事務の負担が大きい。 ・コロナ禍で、児童同士の十分な間隔を取ることが難しい場合があり、活動内容が制約される。



	利 点	課 題
長瀬第二 小学校 通常学級 6学級	<ul style="list-style-type: none"> ・児童数58名の小規模校である。1クラス平均は9.7名の少人数から構成されており、児童一人ひとりの状況を担任が的確に判断し、個に応じた指導および支援を行うことができる。 ・授業においても、個々の児童の実態に応じた課題を設定したり、活躍する場面を意図的に用意したり、きめ細かい指導を行うことができる。 ・縦割り集団の繋がりが強く、異年齢集団での遊びやコミュニケーションが豊富である。また、高学年が自然な形で下級生に接する機会が多く、リーダー性を高めることができている。 ・一人ひとりに目が届くので、児童の安全面からも安心な状況が作られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数が故に、クラス替えがなく、固定化した人間関係が6年間継続することとなる。 ・大人数での活動する機会がなく、何事も丁寧だが小さくまとまってしまう部分がある。 ・学級を構成する児童が少ないので、授業での意見の広がりや深まりが少ない部分がある。また、たくさんの児童との考え方の違いから意見をぶついたり、多面的な物の考え方に触れたりする機会が少ない。 ・体育でのチーム行動や音楽でのグループ等、一部の活動で人数が少ないことから、集団学習において制約が生ずる場面がある。 ・登下校班の構成員が少人数であり、登下校中の安全面について課題がある。

	利 点	課 題
長瀬中学校 通常学級 6学級	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導や生徒指導等において、生徒一人ひとりに対する手厚い指導・支援が可能である（1学級20～25人）。 ・各学年2学級あり、互いに高め合うことができる。 ・校庭、体育館、特別教室などの学校施設の利用を調整しやすく、余裕をもって使用することができる。 ・災害時の避難が安全に素早くできる。 ・職員が学年を越えて生徒の変化に気づくことができる。 ・学校・学年行事で、個性を活かせる活躍の機会を多く設けることができる。 ・自転車置き場のスペースが充分確保できる。 ・保護者が学校行事に参加する意識や参加率が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級減がさらに進むと、人間関係や様々な事情を配慮した学級編制が難しくなる。 ・学級減がさらに進むと、教員の数が減るため、全ての教科で免許状所有者による専門性の高い授業が実施できなくなる。 ・学級減がさらに進むと、体育祭、文化祭、合唱コンクール等での対抗意識が減少し、教育効果の低下が懸念される。 ・学級減がさらに進むと、教職員一人あたりの校務分掌が増えることにより生徒と接する時間が減少する。 ・生徒数の減少、顧問不足により部活動の存続が難しく、多種多様な興味・関心を持つ生徒たちのニーズに応えるのが難しくなる。 ・PTA活動に伴う保護者の役割分担や一人あたりの経費負担等が増えている。 ・生徒や教員の減少がさらに進むと校内清掃が行き届かなくなる。 <p>（その他施設面の課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校庭の砂埃への対応。 ・校舎等の施設が役場庁舎と一体的であるため、外部からの侵入が可。 ・施設や設備の老朽化（校舎・体育館・校庭・放送設備等）

3. 学校教育に関するアンケート調査結果

児童生徒数の推移を踏まえ、長瀬町立小中学校において、将来にわたりより良い教育環境を維持するため、児童生徒にとってどのような教育環境が望ましいかについて、町民の意識を明らかにし、長瀬町学校のあり方検討委員会において、町内小中学校の今後の方向性をまとめるための基礎資料とすることを目的に、以下のとおりアンケート調査を行った。

(1) 調査対象及び実施方法

始めに、保護者アンケートとして、長瀬町立小・中学校に通学している児童生徒の保護者、長瀬町立小学校に就学する予定の町内幼稚園、保育園に通園している園児の保護者を対象に、各学校や園を通じて、保護者にアンケート調査表を配布・回収した（ただし、兄弟姉妹が町内の園・学校に通う場合は、上級学年の子についてのみアンケート用紙を配布し、調査を行った）。

次に、住民アンケートとして、令和3年4月1日現在、町内に住民登録している世帯（令和2年度の中学生以下の児童生徒、未就学児の属する世帯を除く）から無作為抽出（※）した1000世帯を対象とし、郵便による配布、返信用封筒（料金後納郵便）、窓口回収箱により回収した。

保護者アンケートの結果を広報ながとろ令和3年6月号に掲載し、町民へ周知を図り、その後、住民アンケートを行い、その結果を広報ながとろ令和3年10月号に掲載し、周知を図った。

※大字、年齢別の層に分け、各層の人口に応じた比例区分によりサンプル数を定め、そこから無作為に選び出す方法。

対象区分	配布数	回収数	回収率
保護者	364	324	89.01%
住民	1000	485	48.50%
計	1364	809	59.31%

(2) 調査期間

保護者アンケート 令和3年3月 2日（火）～令和3年3月10日（水）

住民アンケート 令和3年6月11日（金）～令和3年6月30日（水）

(3) アンケートの構成

保護者アンケートは、学校の現状に対する満足な点や期待する点、また不満な点や心配な点なども含めて、より良い教育環境に重要なこと、学校の小規模化や再編に対する考えなど、11項目の問いにより構成し、具体的な意見を確認するため、選択のみならず、記述項目や自由意見の記入欄も設けた。

住民アンケートは、保護者アンケートの内容から、現状に対する感想や子供の属性などを除き、質問項目を同様に合わせて、8項目の問いにより、調査を行った。

(4) 回答者数とその属性

回答者数については、(1)の通りであり、保護者アンケートの回答者は30代・40代が多く、住民アンケートは60代・70代が多くを占め、次いで50代が多く、未就学児や児童生徒の保護者世代、祖父母世代ともに、意見集約ができたと考えられる。

(5) 集計結果

①お子さんの通っている（または通う予定の）小・中学校で満足（期待）していること（保護者アンケート結果から）

「より良い人間関係が生まれやすい環境である」の回答が一番多く、次いで「きめ細やかな指導が行われている」、「切磋琢磨できる集団活動が行われている」の順となり、回答者の3割以上がこの項目について満足していることがわかった。

学校別の集計で特徴があったものは、第一小学校では「より良い人間関係が生まれやすい環境である」の回答が57.0%、次いで「切磋琢磨できる集団活動が行われている」が43.8%、「まとまった人数で多様な活動ができる」が41.3%の順となった。

第二小学校では「きめ細やかな指導が行われている」の回答が87.5%、次いで「より良い人間関係が生まれやすい環境である」の回答が75.0%、「各活動における一人一人の活動の場が作りやすい」の回答が54.2%の順となった。

中学校では「切磋琢磨できる集団活動が行われている」の回答が一番多く、次いで「きめ細やかな指導が行われている」、「各活動における一人一人の活動の場が作りやすい」の順となった。

②お子さんが通っている（または通う予定の）小・中学校で心配なこと（保護者アンケート結果から）

「PTA活動などの保護者負担が大きい」の回答が一番多く、次に「人間関係が固定化しコミュニケーション能力が育ちにくい」、「きめ細やかな指導が行われているか心配」の順となり、回答者の3割以上がこの項目について心配しており、小中学校ともに同じ順位であった。

学校別集計で特徴があったものは、第二小学校では「複式学級の設置が不安」、「PTA活動などの保護者負担が大きい」の回答が一番多い結果であった。

また、保育園・認定こども園の保護者で、第二小学校区域（以下「二小区域」という。）在住者の回答では、「複式学級の設置が不安」、「人間関係が固定化しコミュニケーション能力が育ちにくい」、「切磋琢磨する集団教育活動の機会が少ない」の項目を選択する保護者が多かった。

③児童生徒にとってより良い教育環境にするために重要だと思うこと

「きめ細やかな指導が行われること」の回答が一番多く、次に「多様性・コミュニケーション能力が身につくこと」、「人間関係が固定しない」の順であり、保護者アンケート、住民アンケート、学校の区域別にみても、上位3項目は同じ結果であった。

④小規模化についてどのように思うか

「どちらかといえば望ましくない」、「望ましくない」を合わせると57.0%となり、「どちらかといえば望ましい」、「望ましい」を合わせた27.2%を大きく上回る結果となった。

地域別にみると、二小区域在住者の回答は「どちらかといえば望ましくない」、「望ましくない」を合わせて63.5%、第一小学校区域（以下「一小区域」という。）在住者は54.7%であった。保護者よりも、住民アンケートの方が望ましくないとする回答が多く、二小区域の60代、70代の方の「どちらかといえば望ましくない」、「望ましくない」とする割合が多い結果となった。

⑤将来の長瀬町立小中学校の再編（統合）に対する考え

長瀬町において、急激に学校の小規模化が進行する現状を踏まえ、将来の町立小中学校の再編（統合等）に対する考えについての問いでは、「小学校2校の統合」が51.2%、「小学校2校と中学校を統合」が34.7%、「小中学校以外との統合（複合化）」が4.6%、「現状維持」が8.5%という結果となった。

地域別にみると、「小学校2校の統合」は一小区域在住者は54.9%、二小区域在住者は41.3%であった。「小学校2校と中学校を統合」は一小区域在住者は34.7%、二小区域在住者では45.8%であった。

一小区域在住者は、「小学校2校の統合」を望む回答が多く、二小区域在住者は、「小学校2校と中学校を統合」を望む回答が多い結果であった。

（6）まとめ

学校のあり方を検討するために行った、保護者・住民の考え方・意見等を把握するためのアンケート調査は、高い回収率からみても広く多くの方々からの意見が集約されているものと判断する。

その中で、保護者・住民ともに、同じ事項をより良い教育環境にとって重要だと考えていることがわかった。

また、児童生徒のために、学校の統廃合を含めた何らかの再編を求めている声が多くあることも知ることができた。

しかしながら、少数ではあるが現状維持が良いという考えの意見があることも踏まえ、長瀬町の児童生徒にとってのより良い教育環境を整備できるよう、慎重に議論していくことが必要である。

4. 長瀬町の児童生徒にとって望ましい教育環境

学校のあり方検討委員会において、児童生徒数の現状や将来推計、学校施設の状況、学校の現地視察による現状の把握、保護者や住民へのアンケートによる調査を行った結果、学校規模を適正化し、一定規模の児童生徒集団の中で多様な考えに触れ、切磋琢磨し合うことで、心身の豊かさが育まれる教育環境を整備することが望ましいという結論となった。

こうした教育環境を整備するために、学校規模を適正化し、また小規模化の課題を軽減するため、どのような方法があるのか、検討をした結果を次の項目にまとめた。

5. 学校規模適正化及び学校規模に起因する課題を軽減する方法

本町の小中学校は児童生徒数の減少により、全ての学校が小規模校となっている。また、第二小学校においては、令和4年度より複式学級の編制が見込まれており、適正化を推進していくことが課題である。

学校規模の適正化を図る方法として、委員から様々な意見が出され、検討した結果は、次のとおりである。

(1) 小規模校を適正化する方法

①通学区域の変更

現在は、住所地により、通学する小学校を指定しているが、通学できる区域を変更することにより、第二小学校の児童数を増やし、複式学級を解消する方法について検討したが、長瀬町の児童生徒の将来推計を見据えた場合、通学区域の変更のみでは、将来にわたり小学校2校において、安定した望ましい規模を確保することが困難であると見込まれる。

また、通学区域を選択制とした場合、各小学校における児童数の確定時期が遅くなることを見込まれるため、必要な教員の確保が難しくなるとともに、選択制により、児童数の多い小学校を選択する場合もあり、必ずしも第二小学校の複式学級解消につながるとは限らない。

②特認校制度等の導入

特認校制度とは、保護者・地域住民との連携により、地域の特性を活かした特色ある教育活動を行い、通学区域に関係なく、町内のどこからも、その特定の学校に就学できる制度を設置することにより複式学級を解消するなど、児童の増加を図る制度である。

第二小学校に当制度の導入についての提案がされたが、第一小学校においても児童数の減少が進む中、長瀬町の児童生徒数は将来に渡っても減少が見込まれており、2校を存続させることを前提に、第二小学校に特認校制度を導入することにより、第一小学校において安定した望ましい学校規模を確保することは困難であるため、保護者及び住民アンケート調査の結果や、同じ町立小学校における教育環境の格差

や将来的な施設の維持や更新を踏まえ、特認校制度の導入は見合わせることを望ましい。

ただし、小規模校の良さを活かした教育にも引き続き取り組んでいけるよう、丁寧に対応していく必要がある。

(2) 小規模校の課題軽減の手法

①合同授業の実施

現状において、小学校2校の合同授業を行うことにより、大人数での教育活動の機会を提供することができるため、第二小学校児童にとっては望ましい。一方で、第一小学校の1クラス当たりの児童数に変わりはなく、第一小学校にとってのメリットが少ない。

ただし、今後は統合を見据えた上で、児童に配慮した合同授業などの取組を行い、小学校間の交流を進めていくことが望まれる。

②小中一貫教育の導入

小中一貫教育は、義務教育9年間を一体的に捉え、「4・3・2制」などの継続した教育カリキュラムの教育活動や、「中1ギャップ」の解消など様々なメリットが期待されるとともに、小規模校を統合した小中一貫校では、複式学級の解消も図ることができるため、中学校区が一つの本町において、小規模校のもたらず課題軽減につながる一つの手法として考えられる。

ただし、小中学校の施設を統合した形の一貫校設置については、学校施設の設置場所や教育課程の編成、学校再編における学校名や校歌・校章の決定などをはじめ、十分な協議を要する事案が多く、設置までに一定の期間を要する。

しかしながら、今後も児童生徒の減少が続いていく状況を踏まえると、小学校だけではなく、中学校においても小規模化が進むことから、校舎や施設の耐用年数なども勘案し、校舎の建て替え時期などを目途に、将来的な長瀬町の児童生徒にとっての望ましい教育環境の実現に繋げるため、小中一貫教育の導入も視野に入れて検討していくことが望ましい。

6. 小中学校の望ましい学校のあり方に関する基本的な考え方

長瀨町の小中学校は児童生徒数の減少により、更なる小規模化や複式学級の編制が見込まれ、第二小学校については、規模の適正化を推進していくことが、児童生徒にとっての望ましい教育環境を実現させるための喫緊の課題であると考えます。

その方策として、前述の5で掲げた方法により検討を行うとともに、各学校に出向き、校舎等の施設の状況を始め、児童生徒の学習環境や授業での取組などを実際に見学し、現状把握をして意見交換を行った。

まず、小学校の学区の弾力化を図り、通学区域を変更させることによって、児童数を確保し、複式学級を解消する方法で検討を行ったが、小学校2校がともに小規模校のため、将来推計などにより、今後を見据えた場合、小学校2校が望ましい学校規模を維持することは困難であると判断した。

また、検討の段階において、第二小学校に特認校制度を導入し、統合をせずに特色のある教育を進めることも一つの手段であるという意見も出されたが、通学区域の変更と同様に、小学校2校が小規模校である現状や児童生徒数の将来推計により、小学校2校が望ましい学校規模を維持することは困難であると判断した。

これらの検討結果及び保護者や住民を対象に実施したアンケート調査の中で、多くの様々な意見をいただき、調査結果も踏まえ、まずは早急に小学校の統合を軸として検討していくことが望ましいという結果となった。

なお、現状において、既に小規模校であるため、大人数での教育活動に取り組み、また、今後の統合などを見据えて、小学校間における合同授業などへの取組を進めることが望まれる。

さらには、中学校も小規模校となっており、生徒数が今後も減少傾向で、学校運営上の観点からも学校の適正規模化を図る必要があるが、長瀨町における中学校は1校であり、統合による適正規模を図ることはできず、校舎の老朽化による建替も視野に入れた場合、小中一貫校化を図ることも一つの方法であり、長瀨町における小中学校を魅力ある学校にするためにも、長期的な視点で、小中一貫教育を見据えて、引き続き検討を進めることが望ましい。

【課題】

- 小学校2校が統合する場合、通学区域が広範囲となり、児童への負担が大きくなることから、スクールバスの運行など、通学支援策や通学路の安全対策に十分な配慮が必要である。
- 統合後の学校施設の利活用について、地域住民との十分な協議が必要である。
- 統合に伴い、現在行われている学童保育に支障を来さないよう配慮が必要である。
- 統合後も学校応援団など、従来から学校運営に協力をいただいている地域住民との関係性を継続的に維持していけるよう、十分な配慮が必要である。
- PTA活動への取り組みについては、保護者の負担が大きくなるよう、検討していく必要がある。

資料編

写

長教委第 327 号
令和2年10月14日

長瀬町学校のあり方検討委員会委員長 様

長瀬町教育委員会
教育長 野口 清

今後の望ましい学校教育のあり方について（諮問）

今後の長瀬町の児童生徒にとって望ましい教育環境を明らかにするために、長瀬町学校のあり方検討委員会設置条例第2条の規定により、下記の事項について諮問する。

記

長瀬町における児童生徒数の推移を踏まえ、長瀬町立小中学校において、将来にわたりより良い教育環境を維持するため、児童生徒にとってどのような教育環境が望ましいのかを総合的に検討し、将来を展望した学校教育のあり方について諮問する。

長瀬町学校のあり方検討委員会設置条例

(設置)

第1条 町における児童生徒数の推移を踏まえ、長瀬町立小学校及び中学校（以下「学校」という。）の将来を展望した学校のあり方について、幅広い見地から検討するため、長瀬町学校のあり方検討委員会（以下「検討委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 検討委員会は、長瀬町教育委員会（以下「教育委員会」という。）の諮問に応じ、学校の適正規模、適正配置等について協議し、答申するものとする。

(組織)

第3条 検討委員会は、委員16人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) 学識経験のある者
- (2) 行政区を代表する者
- (3) 保護者を代表する者
- (4) 学校の長
- (5) その他教育委員会が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から第2条の規定による答申を終える日までとする。

2 委員が欠けた場合は、補欠の委員を置くことができる。

(委員長及び副委員長)

第5条 検討委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長及び副委員長は、委員の互選により定める。
- 3 委員長は、検討委員会を代表し、会議を主宰する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 検討委員会の会議(以下「会議」という。)は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 会議は、公開とする。ただし、必要に応じ、会議の決定により非公開とすることができる。

(部会)

第7条 検討委員会は、必要があると認めるときは、部会を置くことができる。

2 部会に属する委員は、委員長が指名する。

3 部会に部会長を置き、部会に属する委員の互選により定める。

4 部会長に事故があるときは、部会に属する委員のうちからあらかじめ部会長が指名する委員がその職務を代理する。

(関係者の出席等)

第8条 検討委員会は、必要があると認めるときは、関係者に対し、会議に出席を求めて意見若しくは説明を聴き、又は必要な資料の提出を求めることができる。

(報酬)

第9条 委員への報酬は、特別職の委員の報酬及び費用弁償支給条例（昭和31年長瀬町条例第8号）の規定により支給する。

(庶務)

第10条 検討委員会の庶務は、教育委員会教育総務担当において処理する。

(その他)

第11条 この条例に定めるもののほか、検討委員会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、令和2年4月1日から施行する。

(会議の招集に係る特例)

2 この条例の施行後最初に行われる会議の招集は、第6条第1項の規定に関わらず教育委員会が行う。

(この条例の失効)

3 この条例は、第2条の規定による答申を教育委員会が受けた日限り、その効力を失う。

長瀬町学校のあり方検討委員会委員名簿

区分	委員氏名	所属団体等	備考
保護者を代表する者	高田 昇	長瀬第一小学校	
	熊谷 あい	長瀬第二小学校	
	坂上 美明	長瀬中学校	
行政区を代表する者	柳 秀一	長瀬町区長会	
	植原 広之	長瀬町区長会	
	浅見 隆憲	長瀬町区長会	令和2年7月1日～ 令和3年3月31日
	岩田 泰史	長瀬町区長会	令和3年4月1日～
	小島 光正	長瀬町区長会	
	瀧上 忠夫	長瀬町区長会	
	須賀 正巳	長瀬町区長会	
学識経験者	乙益 直美	高砂保育園	
	神野 敬子	長瀬幼稚園	
	平沼 旻	元教員	
	野村 滋子	元教員	
学校の長	浅見 博美	長瀬第一小学校	
	石原 明	長瀬第二小学校	令和2年7月1日～ 令和3年3月31日
	神田 卓也	長瀬第二小学校	令和3年4月1日～
	富田 勲	長瀬中学校	

長瀬町学校のあり方検討委員会開催経過

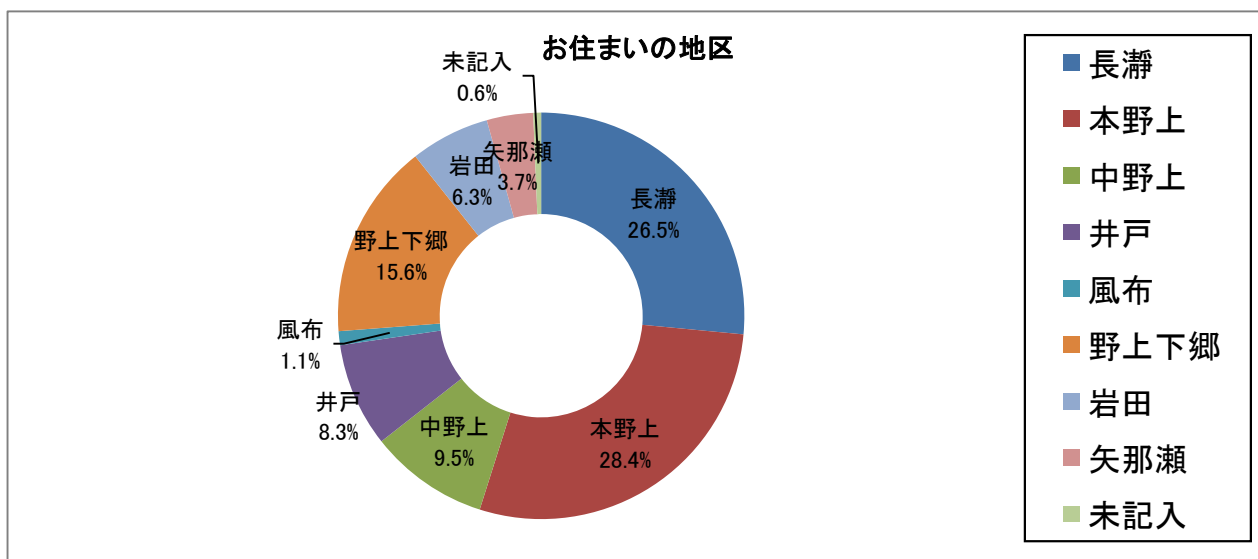
	開催日	協議内容
第1回	令和2年 7月27日	① 学校のあり方検討の役割等について ② 町立学校の現状について ③ 今後の検討委員会の日程と進め方について
第2回	令和2年10月14日	① 長瀬町教育委員会からの諮問について ② 住民からの意見収集の実施について ③ 今後の具体的なスケジュールについて
第3回	令和2年12月22日	① 児童生徒数の推計と施設等に関する資料について ② 保護者アンケートの内容について
第4回	令和3年 2月25日	① 保護者アンケートの内容について ② 複式学級について ③ グループ協議
第5回	令和3年 5月24日	① 保護者アンケート結果について ② 住民向けアンケートの実施について ③ 今年度のスケジュールについて
第6回	令和3年 7月 9日	① 学校現地視察 ② 視察を踏まえた意見交換
第7回	令和3年 9月 8日	① 町民アンケートの概要と集計結果について ② 学校再編について ③ 答申の構成について
第8回	令和3年11月18日	① 答申（案）について
第9回	令和4年 1月12日	① 教育委員会へ答申書の提出

学校教育についてのアンケート集計結果

【回答者概要】

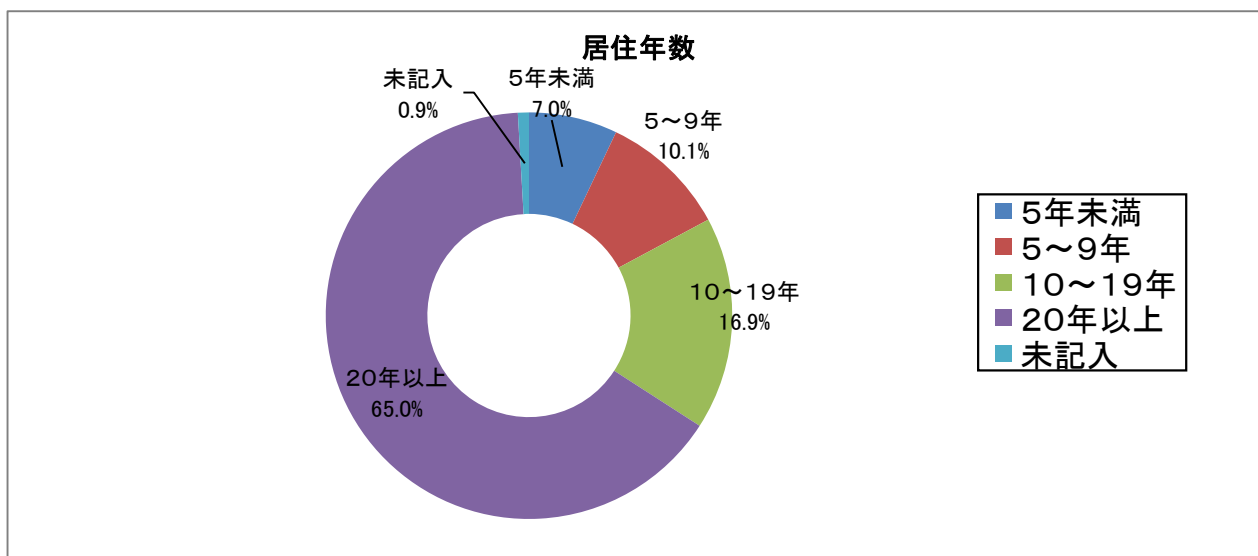
問1. お住まいの地区

	人数	割合
長瀬	214	26.5%
本野上	230	28.4%
中野上	77	9.5%
井戸	67	8.3%
風布	9	1.1%
野上下郷	126	15.6%
岩田	51	6.3%
矢那瀬	30	3.7%
未記入	5	0.6%
合計	809	100.0%



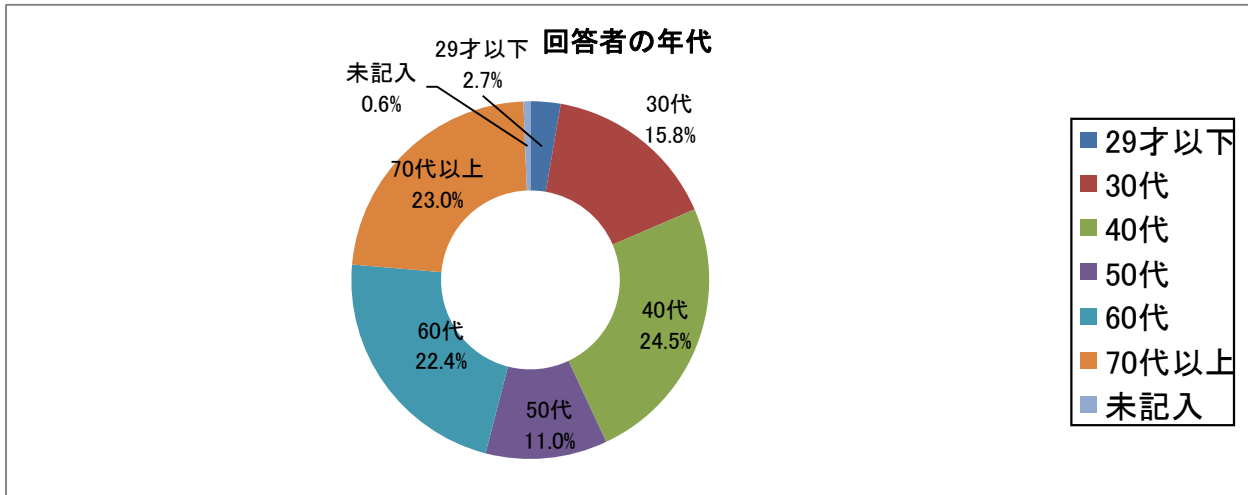
問2. 居住年数

	人数	割合
5年未満	57	7.0%
5～9年	82	10.1%
10～19年	137	16.9%
20年以上	526	65.0%
未記入	7	0.9%
合計	809	100.0%



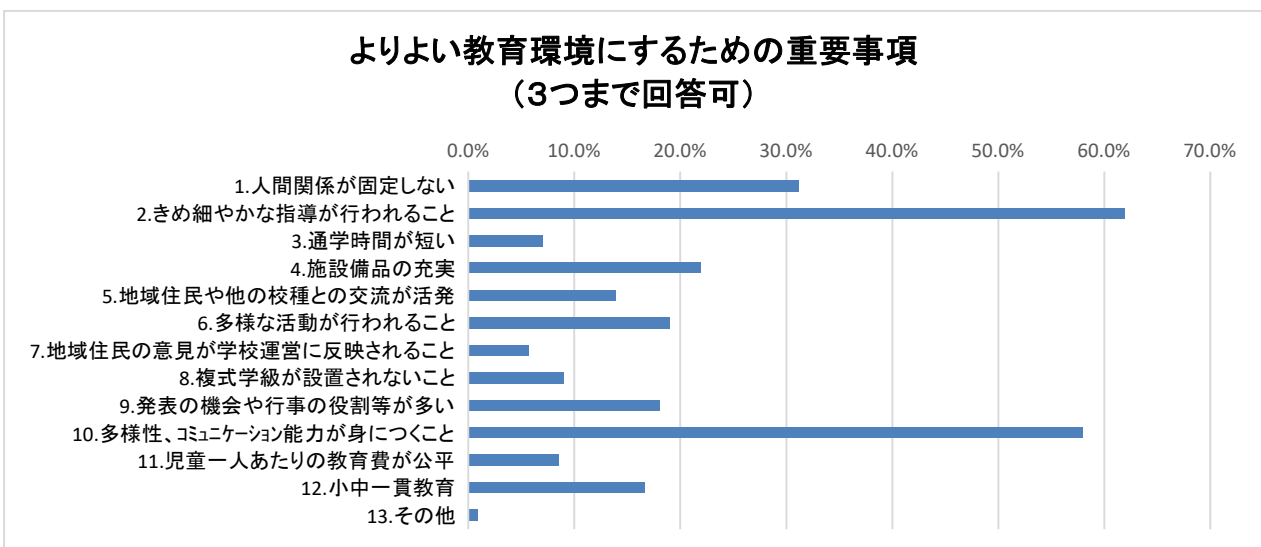
問3. 回答者の年代

	人数	割合
29才以下	22	2.7%
30代	128	15.8%
40代	198	24.5%
50代	89	11.0%
60代	181	22.4%
70代以上	186	23.0%
未記入	5	0.6%
合計	809	100.0%



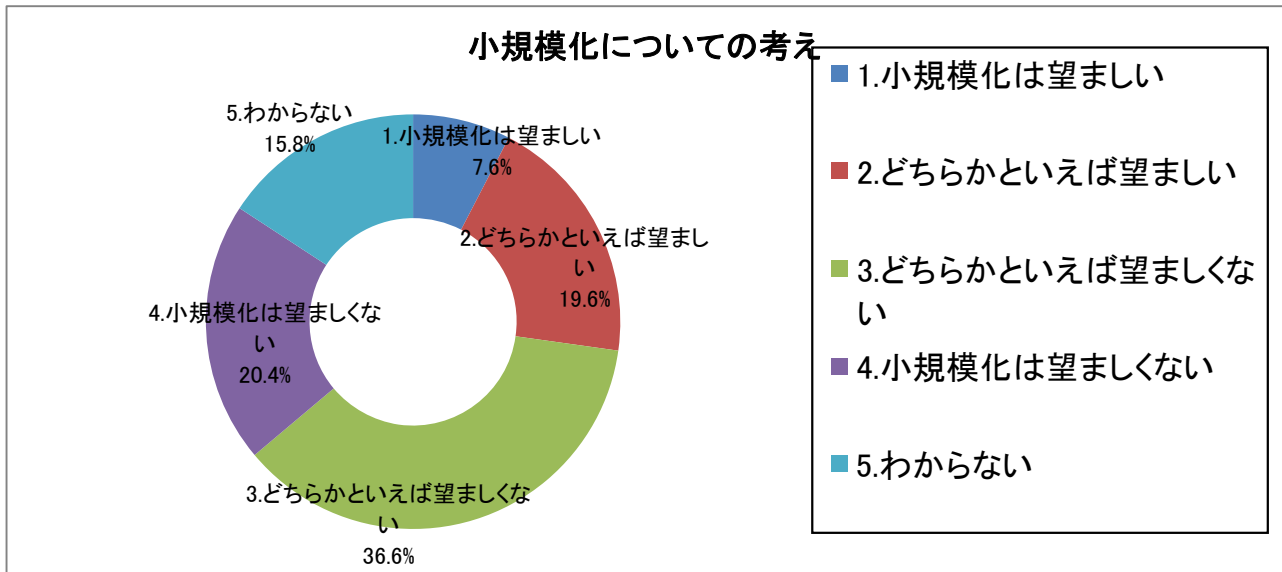
問4. 児童生徒にとってよりよい教育環境にするために重要だと思うこと（3つまで回答可）

	回答数	割合
1. 人間関係が固定しない	252	31.1%
2. きめ細やかな指導が行われること	501	61.9%
3. 通学時間が短い	57	7.0%
4. 施設備品の充実	177	21.9%
5. 地域住民や他の校種との交流が活発	113	14.0%
6. 多様な活動が行われること	154	19.0%
7. 地域住民の意見が学校運営に反映されること	46	5.7%
8. 複式学級が設置されないこと	73	9.0%
9. 発表の機会や行事の役割等が多い	146	18.0%
10. 多様性、コミュニケーション能力が身につくこと	469	58.0%
11. 児童一人あたりの教育費が公平	69	8.5%
12. 小中一貫教育	135	16.7%
13. その他	7	0.9%
合計	2199	271.8%



問5. 小規模化についてどのように思いますか。

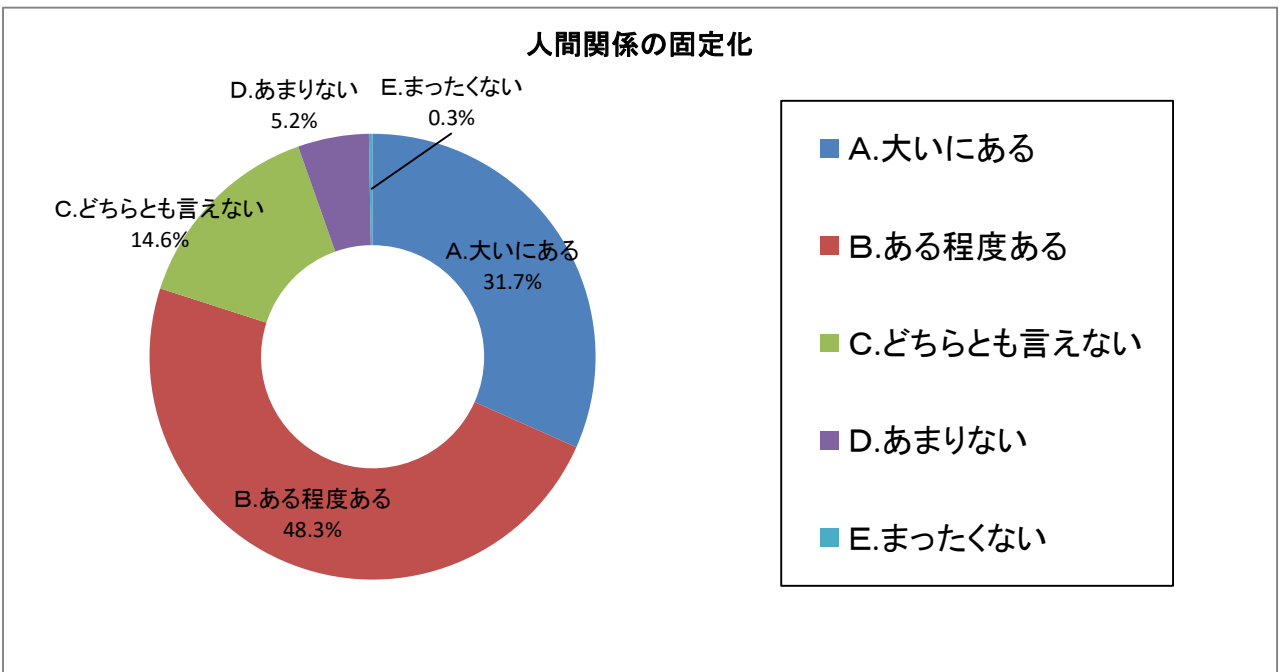
	人数	割合
1. 小規模化は望ましい	60	7.6%
2. どちらかといえば望ましい	154	19.6%
3. どちらかといえば望ましくない	288	36.6%
4. 小規模化は望ましくない	160	20.4%
5. わからない	124	15.8%
合計	786	100.0%



問6. 小規模化の影響について、それぞれの項目でどの程度影響があると思いますか。

人間関係の固定化

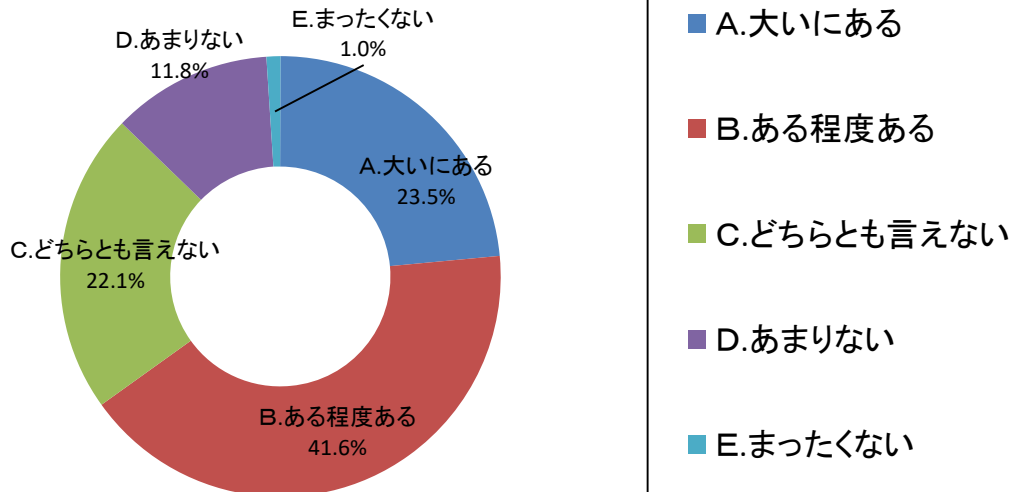
	人数	割合
A. 大いにある	251	31.7%
B. ある程度ある	383	48.3%
C. どちらとも言えない	116	14.6%
D. あまりない	41	5.2%
E. まったくない	2	0.3%
合計	793	100.0%



集団の中で切磋琢磨して学習する機会

	人数	割合
A. 大いにある	186	23.5%
B. ある程度ある	329	41.5%
C. どちらとも言えない	175	22.1%
D. あまりない	93	11.7%
E. まったくない	8	1.0%
合計	791	100.0%

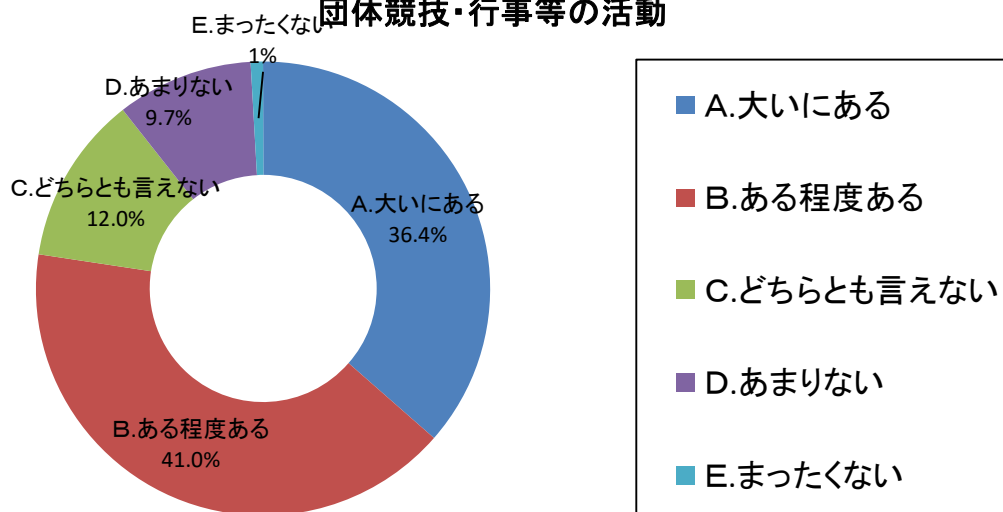
集団の中で切磋琢磨して学習する機会



団体競技・行事等の活動

	人数	割合
A. 大いにある	289	36.4%
B. ある程度ある	325	41.0%
C. どちらとも言えない	95	12.0%
D. あまりない	77	9.7%
E. まったくない	7	0.9%
合計	793	100.0%

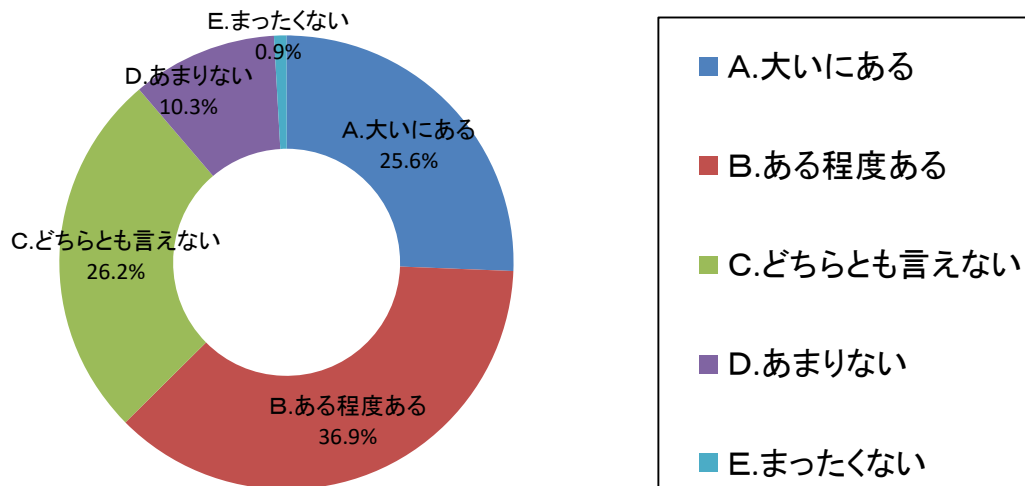
団体競技・行事等の活動



社会性・コミュニケーション能力の育成

	人数	割合
A. 大いにある	203	25.6%
B. ある程度ある	293	36.9%
C. どちらとも言えない	208	26.2%
D. あまりない	82	10.3%
E. まったくない	7	0.9%
合計	793	100.0%

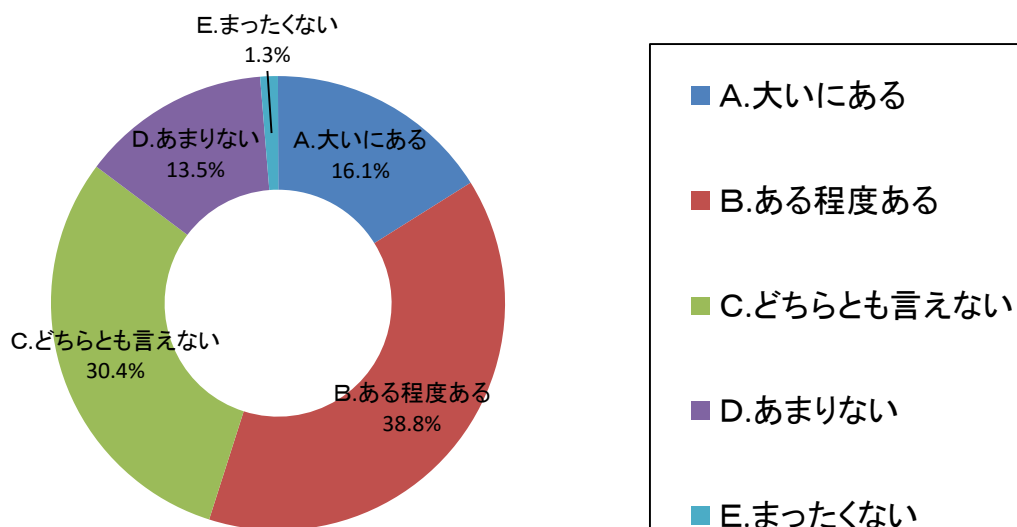
社会性・コミュニケーション能力の育成



意見発表などの機会

	人数	割合
A. 大いにある	128	16.1%
B. ある程度ある	308	38.8%
C. どちらとも言えない	241	30.4%
D. あまりない	107	13.5%
E. まったくない	10	1.3%
合計	794	100.0%

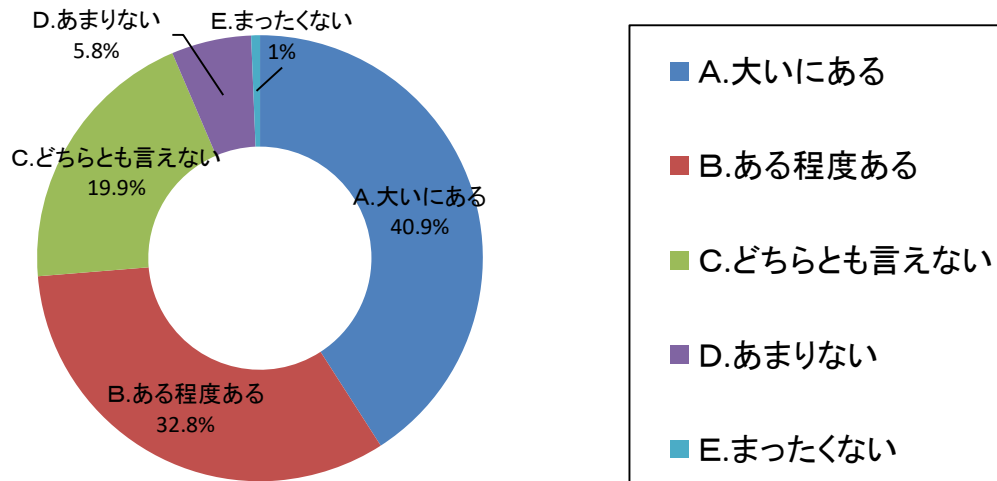
意見発表などの機会



PTA活動などの保護者の負担

	人数	割合
A. 大いにある	325	41.0%
B. ある程度ある	261	32.9%
C. どちらとも言えない	158	19.9%
D. あまりない	46	5.8%
E. まったくない	5	0.6%
合計	795	100.0%

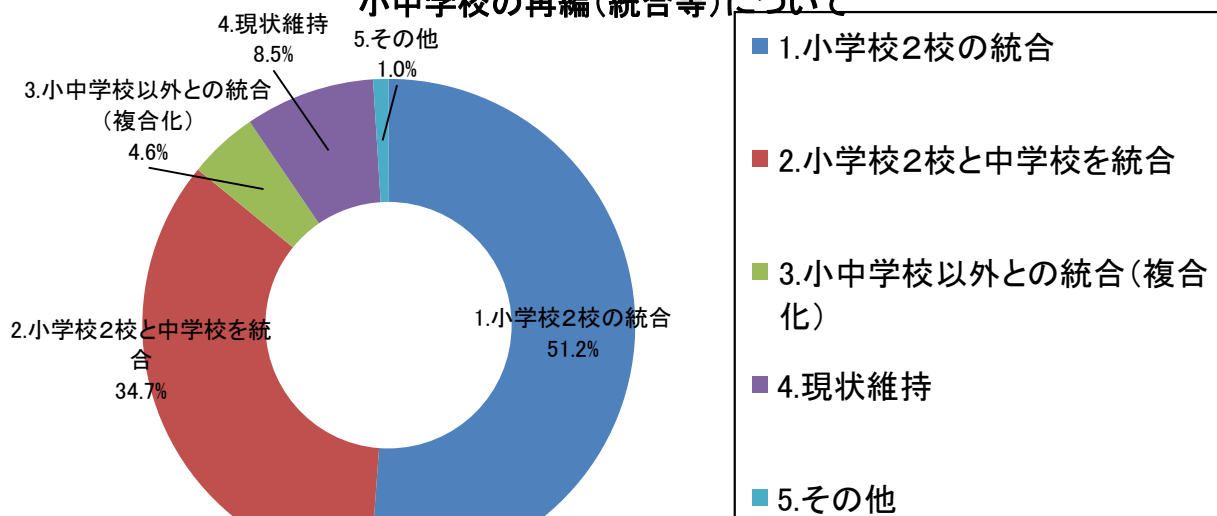
PTA活動など保護者の負担



問7. 小中学校の再編（統合等）について

	人数	割合
1. 小学校2校の統合	403	51.2%
2. 小学校2校と中学校を統合	273	34.7%
3. 小中学校以外との統合（複合化）	36	4.6%
4. 現状維持	67	8.5%
5. その他	8	1.0%
合計	787	100.0%

小中学校の再編（統合等）について



問8 自由意見 色なし;一小地区住民 水色;二小地区住民
オレンジ;一小保護者 青;二小保護者 ピンク;中学保護者 緑;保育園等保護者

●小学校統合希望意見

小学校2校を統合してスクールバスを出したら良いと思います。
長瀬第二小学校の少数化は徐々に進んできていて、クラス替えもなく何年もきていますが、中学校入学時に第一小学校と合同となり、クラス分けをされた際に第二小学校出身者は少なく心細いと感じる生徒も多いと思います。スポーツ少年団等に所属している場合を除き第一小学校、第二小学校の交流を個人間で行うことは少ないと思いますし、昨今、第一小学校の児童数も減りクラス替えもないとお聞きしましたので、第一小と第二小との統合を前向きに考えていただきある程度の同級生と切磋琢磨し運動会や他の活動においても成長する機会を与えてあげてほしいです。20代に全員なっておりますが家の子供達の意見も聞きつつ回答させていただいています。長瀬中学校の運動面、学力面での能力の高さはこれからも支えていてもらいたいと思います。近隣の町での小学校の統廃合も進んでいます。大変な事も多いと思いますが子供達の色々な経験の為にも宜しく願います。
小学校2校の統合は必要。遠いところはスクールバス運行で対応。
外部からの情報が入りにくい地域において、小学校に関しては統合し、少しでも多くの同級生と刺激し合いながら学校生活を送らせてあげたいと思っています。多感な年頃の児童に、社会性や協調性を可能な限り提供してあげるのも、私たち先進の役割と感じています。
小学校の場合、鉄道定期券補助又は、スクールバスの確保等、町からの予算確保をお願いします。小学校の統合は必要です。
小学校は第一第二統合して、駅近い第二へ統合した方が良いと思います。
少子化が避けられない現状では、小学校二校の統合はやむを得ないことだと思うが、統合したことにより子供達の将来にメリットになるよう充分に考えていただきたい。また、長瀬町で育った子供達がまた自分たちも子育てをしたいとおもえる町になることが少子化を止める一つの方法でもあると思うので、自分の育った場所が良いところであると誇りを持つよう発信していくことが大事だと思う。
現状だと第二小学校は各学年とも少なくとも複式学級にしない6学年となっているようだが私としては早い時期に統合すべきと思う。そうなるとスクールバスが必要だが、2つの学校と運営しているより経費は少なく、子供達はバス利用することにより安全登下校ができる。第一小学校へ集めてはどうか。大きな変換となるか経費をこれ以上かけて町費(少なすぎる)の無駄と思える部分を少しでも早いうちに始めるべき。賛否両論あると思うが、いずれこのときは来る。議会でもこのことを論議しているだろうか。小鹿野町における大決断を見習う必要があると思います。
児童・生徒数の減少はやまなく発生する費用を最小限にする事を前提として段階的なステップで全体的な対応方針を設ける。[ステップⅠ]第2小学校生を第1小学校に通わせ統合校とする。(スクールバスを使用する。)[ステップⅡ]学校以外の施設と統合し複合化を目指した土地買収を進める。(予算と土地地権者との了承取り付け)[ステップⅢ]各種学校、施設の耐用年数を長くもたせ複合化設備を設置、建設する。
実際に児童生徒を通わせている保護者にとって、小規模化は深刻な問題です。それを打破するために、スポーツ少年団に通わせたり、習い事に通わせる等、保護者は苦心しています。本来であるならば、小中一貫校が望ましいが、長瀬町の財政を考えると無理かと考えます。長瀬町として、小学校1校、中学校1校を早く実現させて、教育の機会均等化を図ってほしいと考えます。蛇足ですが、「児童生徒の一人一人に目が届きやすく、きめ細やかな指導が行いやすいこと」は、小規模化の良い面ではなく、教員資質の問題だと考えます。小学校が、1校となっても、教員の資質が向上しなくては、意味がありません。引き続き、教育委員会の皆様には、魅力ある教員の採用にご尽力をお願いいたします。
子供の9年間というのは、差が多いにあると思う。1年生に上がった子供が、中学3年生を見たらこわがるだろうから。一小と二小は一緒でも良いが中学生は中学校でいてもらいたい。
小学生の2小児童の減少が著しいので統合して、中学校はそのままでよい。経費面でも良いと思います。児童数がクラスによっても男女比の問題があると思います。
身近な地域の小学校が必要との考えも大事だと思いますが、小規模な小学校でも配置される教職員の数はそれなりに必要かと思っています。2校を合わせて充実な教職員にて細かなところまで見守ることが良いと思います。残される施設については地域のコミュニケーションの場として広く多くの人に開放してもらいたいと思います。
小学校2校の統合を検討する必要があると思います。2校にかかる人件費、設備費などもあるし、コミュニケーションを大事にするなら個人的には思います。
小中一貫となると新たな校舎建設や用地の取得など財政負担が増えることから小学校2校の統合で進めるのが良いと思う。統合にあたって空き教室などを考えると一小の校舎を使用するのが自然ではないか。あとは、二小の児童の通学方法を矢那瀬・岩田・辻・宮沢・杉郷・一小地域の唐沢をスクールバスで小坂・滝の上が電車とか。スクールバスも2台となると二小の現在の学校予算位は費用がかかってしまう。

1年でも早く小学校の統合をお願いしたいと思います。

【問7】小学校2校の統合案を早く示す時期です。誰もが近くが良いと考える。私案としては、中間点に新設する。【問8】今、世の中が不安定で危険性が潜んでいる。本当に真剣に子供達の環境を考える時です。そして、今少年時代を充分に楽しんでいるのだろうか？何かとても大切な忘れ物をしていないかを感じる。

長瀬第一小と第二小では、人数が違うため中学校に入ってから差が出来ると思う。人間関係や競争心とかに違いがあると思う。また、小学の運動会等でも2校統合し、にぎやかに行った方がよいと思います。

二小などは何十年も前から一組だけの学年もあり、一学年から六年生になり卒業するまで同じ人たちだけの交流で気になっていました。クラス替えをする事で新しい友達がつくれたりもして人間関係も広まることから一、二小が一つになることで多勢とのつきあいができてその中で友達も増えるのではないかと思います。

1クラス30人以下が望ましい。理由は1クラスでは固定化してしまいあまりよくない。成績面でも共有しなくて自分で評価できる。その結果クラスの学習状況も異なることがある。なるべく早く合併してほしい。期待している。

小学校の統合を希望している。小規模校は人間関係が固定化されやすいと思う。統合することによって児童が主体的に動けるようになってくると思う。

同じ町内に住みながら二小では複式学級になってしまう。一小ではあと2～3人増えれば2クラスに分けられるのに・・・という悪循環となっている。一小では、ある学級では34人で見ると『密』な教室で学習している。一小と二小が統合すれば密になる状況も多少緩和できると思うし、先生の目も今よりもっと行き届くと思う。クラス替えで友達関係も広がり、救われる子供もいると思う。どうか歴史などにこだわらず、今の子供達のことを真剣に考え、ぜひ、小学校統合を一刻も早く実現させてほしい。

第一小学校も35人学級にし、2クラスにし、子ども1人1人に目を配れるようにしてほしいです。

小学校を統合して一小を利用するのが良いのではと思っていた。でもここ最近の台風被害などを考えると、土砂災害、増水など危険な場所は避けて立て直すのも良いのではと思うようになった。

今後、少子化が進み子供が減っていくのがわかっているのに、小学校2校維持していくメリットはないと思う。統合して通学が困難な生徒は電車通学かスクールバスを出せばよいと思う。同じ町内で二小だけが複式学級になるのは異様な気がする。

小学校2校の統合も良いと思うが、各地域、生活面において大きな変化はすぐには難しいので、中学校へ行ってから一、二小の生徒が初めまして、という感じにならないよう、日頃から交流を図ることが大切だと思う。中学校へ入り、第二小学校のお子さんだが、親が見てきた姿とは違い、沢山の友達の中でとても明るく学校生活を楽しく送っているようになったと話聞いた。小さい頃からできるだけ多くの人と関わることは成長するために重要なことだと感じる。4人の子供の成長を見て感じている。

少人数過ぎるクラスよりもある程度人数がいた方がよいと思う。一小と二小を一緒にしてよいと思う。先生の人員費も2校分いなくて良い面もあるのではないかと考える(校長・教頭ほか)。プールなども1つの学校で十分だと思う。様々な面を考えて統合が望ましいと思う。対応が遅いという話を地域でも聞きます。

小規模化は致し方ないと思うが、小学校と中学校の統合は反対したいと思う。小学校6年生から中学校1年生は、人生でものすごく大きな変化だった気がする。社会勉強の本当の始まりだった気がする。小学校と中学校を一緒にしてしまうと流れて学年があがる。小学校7年生になるようなので、けじめをつけられるようにしたい。

小学校2校を統合するなら、バス通学ができるようにしてほしい。長瀬町は広いから。

- ・早急に合併すべき。1学級10人以下はかわいそう。1クラス何人いるの？と聞かれることが多く、精神的苦痛がある。ばかにされる。性別の偏りで、女の子一人の学年がある。親御さんも心配。低学年は二小・高学年は一小など、今の施設を利用して小学生と一緒に遊べるとよい。
- ・今頃になって統合を検討するのは遅すぎる。スピード感を持って子供のために進めてほしい。
- ・スクールバスは安全なので、シルバー人材などでドライバーをまかなえばよい。
- ・中学校にサッカー部がないので、やりたい場合はユースに通わなくてはいけない。部活に入らないと内申点に影響するときいた。
- ・長瀬にはそれなりに知名度がある。観光への予算を削ってでも教育問題に予算を使ってほしい。
- ・少人数の学校の教師と大規模学校の教師とは力量に差は無いのか？

<p>●小中一貫統合希望意見</p>
<p>将来的には、小中一貫校が財政的にもよいと思います。子供達の通学面など多々有ると思いますが、町民が難しいと思いますがボランティア活動などでそのような問題を解決していけたらよい町になると思います。</p>
<p>小中学校を統合して1ヶ所に集め2ヶ所の土地を売却して土場を建設して法人税を他町より下げて会社を建設してもらい税金を学校に町の財政に生かす。</p>
<p>これから人口が増える要素は何もない。したがって児童数も確実に減少するのみ。小中学校を分けず小中一貫校に建て替える方が良いと思う。たとえ時間を要したとしても。</p>
<p>現状の小中3校体制を今後50年継続すると想定する場合にかかる経費と小中一貫校にした場合にかかるそれとを比較して検討する作業が必要はなす。少子高齢化が避けられない現状と、今後も劇的に子どもの数が増えて行くことを見込めない現状から、今の3校体制をずっと維持していくことはほぼ「ありえない」事と考える。ハコモノと、そこに関わる人件費を削減し、その分を小中一貫にすることで生まれるメリットの部分に投資する事の方がよほど有益であろうと思う。小中一貫校になることで想定されるメリット、デメリットを、これまで以上に町民に提示すべきと考える。社会情勢にあわせ、これ迄以上にスリムに、シンプルに考え、変化していく柔軟性があってしかるべきだ。その為の変化に対応する覚悟と自覚が、町にはまだ足りない。</p>
<p>現在長瀬町の現状を見ると、人口の増加は見込めない。早く小中学校の再編を期待したい。</p>
<p>少子高齢化は自然の流れなので、数少ない子どもたちを一箇所に集めよりきめ細かい指導をしていく方向で考えた方が将来的には良いと思います。色々な面でメリットが大きいです。そのメリットを十分に生かしつつ、デメリットをいかに小さくしていけるかということも考えていきたいです。</p>
<p>少子化が進んでいるので、野上駅を中心として小中学校を同じ場所にする事に賛成です。</p>
<p>少子化が進む現状では、アンケートの主旨が今始まった事ではなく、すでに遅きに失す！！しかし、打つ手は非常に難しい課題です。小中一貫（統合）は、現況の安全、安心の通学を考える上で思いきってスクールバス通学も一考と思います。</p>
<p>同じ環境で育てていくこと、子供は同じ子供（平等）であるのに、親及び世帯の収入の多少により、児童手当の有無が決まるのはどうかと思う。親の収入の多い・少ないは、その親の努力の結果であり、子供には無関係だと思ふ。小さな町であるので、小中一貫教育（目的を持ったもの。勉強であり、スポーツであり、ピアノなどの技術の向上）は望ましいと思う。校舎の改修や送迎など、経費はかかるものであるが、それは将来への投資であり、負担だけを将来世代に転嫁させるべきではない。子供の可能性を信じて、教育してほしいと思います。</p>
<p>小学校と中学校を統合しスクールバスあるいは町営バスで登下校、町民も利用できれば見守りにも交流にもなる。施設は統合してもしなくても改修その他の工事は必要。ならば、今の中学校を改修・設備の増設など改良した方がよい。中途半端なやり方は、かえって税金の無駄遣いになる。</p>
<p>小学校における教科担任制が予定されている中、小規模小学校では教員配置上、実施が難しい面があると思われる。そこで、早急に小中一貫教育を進め中学校教員の活用をはかるなど児童生徒のこれからの時代にあわせた学力向上を図る必要があると思う。</p>
<p>統合に時間と予算が必要であっても長い目で見れば少子高齢化が避けられない以上、9年間のカリキュラムの中で長いスパンでの余裕をもった教育は子供達に良い環境を及ぼすのではないかと思います。また、少人数よりはる程度の人数の中で縦・横のつながりをもちながら人間関係を築いてゆく方が将来的に役に立つのではないかと思います。</p>
<p>一小及び二小の数年先を考えれば、出来るだけ早く現在の中学校の西側、保健センターを含めて土地を小中一貫校を見すえた用地の確保を町は努めて欲しい。既に公立の小中一貫校は実績を挙げている。教育では全町民で一部の費用を支えるべきであり、直ぐにでも寄付を募りはじめ5年先くらいに開校して欲しい。</p>
<p>町立の学校3つの施設管理に、たぶん十分な資金が投入されていないはず。以前「体育館の雨もりの修理があとまわしになっている」と聞いたことがある。人口6,804人（2021.6.1現在）の自治体で無理なく持続可能な選択をできるだけ早く始めるべき。上記問7の2が最良のオプション。一小への統合、二小への統合には2つ地域に大きな不満が残るはず。移行に時間がかかるなら、なおさら早くカジを切ること。</p>
<p>人数が少ないと通学班なども人がいなくてあぶないと思うので遠い地区や人数が少ない地区は送迎が必要になってくると思います。学校を統合してバスを出す等があった方が安心だと思います。送迎ができる家ばかりではないので…。地元に通ける企業が少ないので若人はでていってしまう。人口が増えるようになにか手をうたないとどんどん減ってしまうので学校も小規模にするしかないのでは。都会から田舎にと対策はとっていても、若い世代がこなければ（定年後の人では）人口はそれほど増えない。</p>
<p>3校の耐用年数を考えると、中学校が1番古く、小学校が規模から考えると一小到統合するのが良いと考えたと、現在の一小的の位置が長瀬地区に片寄っている。交通面、鉄道利用を将来の通学のことを考えると野上駅の近くに小中一貫校を新たに進めていくことが、一番良いと考えます。</p>

<p>・現状では、義務教育学校として、長瀬中学校に、第一小・第二小を統合することがよいと考える。 ・学校は、その地域の文化の中心であり、その地域から学校がなくなることは、とても残念であるが、この少子化ではどうにもできない。 ・義務教育学校として発足後、第一小・第二小の施設は、企業誘致などで、人を増やすことも考えられたし、特に、テレワークなどで東京などからの誘致ができるととてもよいと思います（簡単ではありませんが） ・小学校だけの統合はやめた方がよいと思います。</p>
<p>小学校・中学校を統することによって、社会においての人間関係を勉強する機会が増えると思う。小学生の送迎にはバスの運行が必要と思う。小学校2校においては他の施設に利用することが望ましいのではないかとと思われる。</p>
<p>小中一貫校にし、教育に力を入れて、9年で子供達の学力向上をめざし、教育に特化した町として認知されれば、町の若年層（教育の質をもとめて越してくる若い夫婦）も増え、町も活性化するのではないかと思います。</p>
<p>小中一貫校にすることで、人間関係が固定化されず、横の関係だけでなく縦の関係を築くこともでき、社会性やコミュニケーション能力を育むことができるので、これからの国際社会で活躍するための基礎となる小中学生時期には大切なことだと思う。</p>
<p>児童生徒数の減少や学校施設の老朽化と改修等に要する費用を考えると、小中学校は統合してより良い学びの環境を整えることが、長瀬町の魅力アップにもなると思う。</p>
<p>中学校をリフォームし、小中学校を統合し、保健センターを屋根のあるプールに作り直し、何のためにあるのかわからない保健センターはいらない。</p>
<p>自分が子供の時よりも人口がものすごく減っていると何年も感じていた。特にここ数年で急激に子供が減っていると思う。学校が1つになることに不安はあるが、他者とのコミュニケーションだったり他学年との交流だったり、プラスな面の方が多いと思う。今のように3校でいるよりも統合し、小中一貫校になることを希望する。</p>
<p>今後、子供が減少することは、間違いないと思うので、後を考えて期間を要しても一貫校にした方がよいと思う。その時々様子を変えていても慣れた頃に変えたり、出費をかけるのに、また出費や期間の一からのスタートには問題が多いと思う。</p>
<p>少子化は避けられないので、少ないからこそ出来ることを模索してほしい。例えば長瀬町に移住者を増やすにしても、長瀬ならではの学校教育などがあれば若者が増えるのではないかと。愛知県の飛鳥村立の飛鳥学園は、小中一貫校で魅力ある学校づくりをしている。田舎は都会に比べて選択肢が少ないので、魅力ある学校づくり（ITだったり英語だったり）が大切ではないか。</p>
<p>児童数の推移と推計を見ると、小中一貫校の設立が将来は望ましいのかと思うが、設立までの年数及び経費負担などを考えると頭を抱えてしまう。年々減り続ける子供の数を考え、小学校の統合でも良いと思う。1つに統合し、学校にかかる経費を一つにまとめ、今までかかっていたもう一つの学校への経費を積み立てる。これからまだまだ長い年月だが考えて行かないと。校舎を建て直すとなると小中一貫校でもいけるのかな。</p>
<p>秩父地域の他の地域と比べても長瀬町の少子化はスピードが速いと思う。これからは、どうしても再編の必要があると思うが、他の地域と同じ小学校同士の統合、中学校同士の統合ではなく、時間や経費がかかると思うが、小中一貫校とすることで質の高い9年間、統一の取れた学校生活が送れるように整備する方がよい。また他ではまだ少ない小中一貫教育を先取りで行うことで、長瀬で子育てをしてみたいと思う若い夫婦の方が定住してもらえたら、高齢化もスピードが遅くなるのではと期待する。観光の町長瀬だけではなく、住んで子育てをしてみたい長瀬に変化するのも悪くないと思う。小規模の状態だからこそ、思い切った方法で変化させていかないと長瀬町の将来は暗いものになるかもしれない。</p>
<p>予算を工面して例えば中学校を解体して新校舎を小中一貫で使用できるように建築して、ある程度小中の区別は必要だが、今後、長寿命化工事が必要ないようにはできないのか。行事は一小的校庭を使うなどして活動の場を広く持ち、部活にも対応できる仕組みにして、長い目で利用できる環境も必要なのではないかと。近隣にも皆野・尾田・原谷小・秩父一中など新しい校舎が増えているし、総合的に考えて目先の対応に終わらない対策をお願いしたい。</p>
<p>小規模化は仕方ないこと、デメリットをあげたら切りが無い。PTAと先生の負担を減らすのは考えた上で、メリットを最大限にのばしていくのはどうか。例えば、教員の目が届きやすく、きめ細かな指導はしやすいというのはあてはまる。小中一貫にすればなおさら。ならばそれを活かして学力日本一を目指す。小さな町の小さな小中一貫校の成功例。この町に住み子供を通わせることで確かな基礎学力がつく、となれば移住してくる若い人も増えるのではないかと。子供が減少する中で、小中一貫教育は良い考えだと思う。</p>
<p>小中一貫の新校舎の新設。周辺市町村と比較し、校舎の劣化が著しいため。</p>

長い期間を要するのに！小規模化・合併問題を先送りにしすぎたと思う。
少子化問題について教育面でもっとしっかり計画を立てて、さらに若年層ファミリー層にアピールできるものを打ち立てないと移住者も集まらず少子化の一途をたどることになる。
小中一貫教育は先10年の事を考えると必須！移住者(若者ファミリー)を呼びこめるような教育改革(カリキュラムに例えば“オルタナティブ”な部分に力を入れる。農業、自然環境、芸術、科学的な外部講師を入れたり言語学に力を入れたり、フィールドワーク、ワークショップなどもたくさん行うなどが必要になると共に子育てしやすい街づくり、学校外教育施設の充実も同時にしないともうどうにもならないところまできている。

<p>●統合は必要の意見</p>
<p>保育園、幼稚園、老人施設、小学校・中学校の統合など</p>
<p>小規模校の良さもありますが、クラス替え等をして人間関係などは変わらず大変な思いをした方もいると聞いています。子供だけでなくPTA活動も負担が増し学校に通学している間はいつも何かの役員をやっていた気がします。親の人間関係も大変だったです。学校の施設も中学のプール等、他の市町村から遅れていると思います。</p>
<p>他人ごとのように思っていました、自分が生れ育った町にも、とうとうこの様なことが迫って来ている事に心が痛みます。将来的には避けて通れない事と思います。関わる方々のご苦労をお察しいたします。統合しかないのでしょうか。</p>
<p>小規模校の良い面も捨てがたいと思います。総合的に考えると統合に向けて進めていくのが良いのかなあと思います。アンケートに答えさせて頂きました。未来ある子供達に良い環境の中で学んでもらいたいと思います。</p>
<p>高齢化社会で子供の人数が減少している事は何年前から気づいていると思います。子供の人数が少なければ学問でもスポーツでも良い意味でのライバル意識が生まれなくなるのでは…。お山の大将を作らない為にも多勢の中で教育を進める必要があると思います。子供育てをしやすい環境を一日も早く整えてあげてほしい。住みやすい長瀬町が必要。長瀬は教育にふさわしくない町になっている。</p>
<p>小さな頃から様々な思考を持ち、いろいろな体験をするためには、小規模校では厳しい現状があると思います。数十人の同級生の中から、一生の友を見つけるのは難しいことであり、学級で育っていくと友達の作り方を知らないことも…。小規模ならではの良さもあるのかもしれませんが、せめて中学校は二学級以上あってほしいと思います。中学校の部活動も厳しい状況かと思えます。伝統、歴史のある学校をなくすのは、ツライことかと思えますが、今学ぶ児童・生徒、これから学ぶ子どもたちにとって、いちばん良い選択をすることが、町や教育委員会にのぞむことです。過去の栄光やプライドなどつまらないことにこだわらず、必要であれば他市町村と協力していくことが大切だと思います。一番はそこで学ぶ児童・生徒にとってよい方策、そしてそこに通わせる保護者の方々の思いを優先させてほしいと思います。</p>
<p>複式学級は絶対ありえません。私立の進学コースの少数精鋭なら別だが、公立ではなるべく大きな集団で切磋琢磨した方がよい。小中一貫校でも優秀な子供は良いがカリキュラムから脱落した子供は？心機一転も必要かな？受験勉強は進学塾かな。</p>
<p>子供達の挨拶がよく出来ている。1. あちこちに箱物を考えもなく点在するのではなく永い目(計画)で一ヶ所に集中すべきである。(小規模・多機能型) 2. 0地点に立って町全体を見直して欲しい。 3. 夏休み。秩父は2学期が8/26始まっているが、校内の環境が良くなっている今、早く始まっていいのではないかな。</p>
<p>通学時間や通学人数を考えてください。学校生活の一環として！</p>
<p>統合するにしても小規模校の良さも生かした教育が受けられるような学校にして欲しいです。</p>
<p>小中一貫となった場合の登校手段を考える必要があると思います。スクールバス等…保護者に負担がないようにできればと思います。</p>
<p>小規模校が多いと色々な経験が多くかかる様な気がします。なるべくまとめて運営(できれば)していただいた方がよいと思う。</p>
<p>少子化については10年以上前より懸念されておりましたが、この間まったく議論がなされず、今日に至った様に思えます。本来、第二小学校に入学予定であった女子児童は1名のみのため、急遽第一小学校へ入学されたとのお話も伺いました。こうした事態も踏まえ5年、10年先を見越した対応を早急に行う必要があると考えます。</p>
<p>こらからの教育はオンラインにより、遠くの子供達とともに学習を進める機会も可能である。タブレット等の活用で第一小と第二小とのオンラインによる合同の授業(同じ科目・同じ教科)で社会性・コミュニケーション能力等を高めることも統合する前から進めておく必要がある。生徒会でもオンライン会議の活用で相方の意見を交換することもできる。可能な限り、現状の中でできるものから進めておく必要があると思う。</p>
<p>二小の卒業生です。今の状況で二小を存続させる意味はありません。元々このアンケート問6に全て該当しており、子供の人格形成にも良い部分がありません。むしろ悪影響ですらあります。自分が通っていた頃は今程児童数は少なくありませんでしたが、やはり長期的なイジメ等ありました。更に人間関係の入れ替わりが少ない為、入学時点(小1)で上下関係が出来てしまっており、弱い子は6年間やられっぱなしです。下手したら幼稚園、保育園からやられ放題の子もいると聞きます。井の中の蛙になっており、中学入学後になじめない子もいました。自分は卒業生ではありますが、二小の存続には疑問です。学区内の地域性もありますが閉鎖的にもなって来ると思えます。このままだと樋口地区の人口減少にも歯止めはかからず二小の存続どころではなくなると思います。</p>
<p>小学校の統合なら現中学の近くに。通学は駅の近くに家がある人は電車、遠い人はスクールバス。費用が49億円必要であるなら、皆野町と一緒の学校に</p>
<p>少子高齢化が進む事は、今までに分かっていた事ではないでしょうか。町長が統合しないと言うお考えで町長になられ、賛成意見が多いと聞いたことがあります。統合は必要かと思う。施設の他にも、バスの手配も必要になるかと思えます。良い方向へむかい、学校教育が出来る事を願っております。</p>

児童減少のため、統合するのは必要なことではあるが、学校教育の面では教師不足になり一人一人を見てもらえるのか心配。二小が2学年1クラスになるようですが、良い部分悪い部分をきちんと理解でき、子供達がのびのび楽しく生活できればよいと思う。

小学校の統合は前に聞いたことがある。一小の方が広いし統合にはいいと思うが、二小の前には駅があり、安全に登校出来ると思う。寄居の小学校では今でも小学生が電車で登校している。設備が必要なのはわかるが、あまりお金をかけずに今ある物を使っていくという考えもあると思う。

二小が無くなるのを反対しているのが、地域のお年寄りが多いと聞きますが、色々な思いはあるとは思いますが、子供達のことを第一に考えて判断するのがよいと思う。

子供が少ない世の中で増やそうと考えるのも大変だが、まずは今現在から5～10年で困っていること考えて出来る準備を進めなければいけないと思う。施設の統合に5年程度とあるが、それなら尚更迅速に。今年度は難しいが、来年度から動き出してほしい。自分の子供は卒業してしまうが、子供が在学しているかいなかではなく、将来を担う子供達のために動いてほしいと切に願う。

早期に統合すべきと思う。少人数のために町の税金がかかりすぎるため。

難しい問題だが早く手を打ってほしい。

子供が少ないので、PTAの役員はすぐ回ってくる。本当に必要なのか。必要あれば最小限ににしてほしい。負担をなくすべき。コロナで新生活様式が出来てきているのだから、落ち着いたとしてもそうすべき。複式は少し抵抗あるので、できる限り統合を求む。

●小学校統合後、小中一貫統合への意見

将来的には小・中一貫校にすることをふまえ小学校の統合はできるのではないのでしょうか？1学年2クラスになれば授業参観等もしやすくなります。町の財政にも多少協力できると思います。又、学校は耐震工事が済んでいるので、二小を公民館として活用できると思います。体育館も音楽室も図書室もあるので。

第二小の1クラス平均9.2人（R27では同3.6人の見込み）の現状を考えますと、第二小を第一小に統合する必要があると考えます。統合に反対する保護者の方々（第二小保護者に多いが）は、通学距離が長くなることを主な反対理由としていっていると考えられます。遠距離児童に対してスクールバスの設置と運用が検討課題になると考えられます。その後の将来は、学校施設の老朽化を避ける観点から、小中一貫校に向けて進めて行く必要もあると考えます。

1、早期に小学校の再編を進める。 2、スポーツ競技（体育祭）文化祭等について、近隣校との交流・協同開催を実施する。（大きな集団の中で、多様な人々と触れ合い切磋琢磨し、視野を広くできる。） 3、長瀬げんきプラザ、博物館など地域の施設を有効に活用する。（ラフティング、カヌーや野外活動に業者に協力を依頼する。） 4、町民の意見を広く求め、十分な検討して、その結果児童生徒の教育に有効なら小中一貫校へ進める。

ほぼ町の中心地にある中学校地に小・中一貫校は理想と考えます。第一小学校へ第二小学校の統合はぜひ早めのご検討を望みます。

数年先を考えた場合、小中一貫校が望ましいと思いますが、現状は早めに小学校2校の統合が必要か。その場合、スクールバスの運用も必要か。

小学校の統合は避けて通れない。早いうちに決断すべきだと思う。近隣地域ではやっていない「小中一貫校」は長瀬町の良い部分として大きなPRにもなる。関わる方には多大な負担があると思うことは認識している。教育改革には子供を長瀬町で育てていきたいと若い親御さん達に思わせられる可能性を秘めている。新しいことをどんどんやってほしい。

最終的に小中一貫にすべき。ただ段階的に統合を行い無理なく進めるべき。

段階①第一小、第二小の統合（5年程度）

- ・通学バス一台必要とするだけ。統合のための改修費は基本的に必要無いと思う。
- ・一校閉校とするだけで高額の費用が浮く。
- ・跡地利用も段階的に検討できる（個人的には道の駅等の商用利用）

段階②小中学校統合（10～15年で実施）

- ・耐用年数から建て替え
- ・裏の敷地も含め、中学校敷地に建て替え

<p>●施設の複合化の意見</p> <p>他の県からも「ぜひあの学校に行かせたい」と思われるような学校にして頂きたい。人数より内容。子供達自身がそれぞれ目標をもち将来「あの学校良かった」と次の世代にも繋げられるようにして欲しいです。老人ホームと共存であったり、子供達・お年寄り達も共に元気に活気ある生活。</p> <p>統合になった場合は、学校の利用化を町民と一体になり、町の公民館で使いづらい所を利用したい。</p> <p>長期的にみて長瀬町では子供の減少は問題ないところです。いずれは縮小せざるをえないでしょう。出来れば多世代との接触の機会も子供の成長にはかせないと思います。ならば学校と地域の施設との統合は有意義だと思います（社会性を育てる上で）。一時的には財政への負担はありますが、長期的にみれば有効な選択だと言えるでしょう。但し、統合するとなれば幾つかの親への負担が考えられ、その点を考慮する必要があると思います。</p> <p>現役場を建築する際に統合について考えていれば複合化等により財政面において良かったと思う。公民館も含め一小・二小・中学校を全て統一化（図書館も）して敏腕の教師により進学校にして逆に学校目当てに住みたい町にするという発想も良いかも。まず実績を作らねば。</p>
<p>●現状維持の意見</p> <p>ごく個人的な素人見解ではございますが、学校教育において、競争心をあえて後押しする必要はないと考えています。小規模学級に恵まれた面も多いと思いますので、あるがままを活かした教育を期待しています。</p> <p>小規模を行うことで係活動や委員会活動、部活動を自らが主体的となって動く必要が出てくる。主体的となって動くことで人として成長する機会が生まれるので小規模化はとても良いと思う。小中学校は担任の先生の役割が大きい。切磋琢磨できる活動の設定をすることで生徒の成長を促せると思います。</p> <p>児童生徒の数が減少する（した）からといって即統合へと話を進めるのは如何なものでしょうか。（第二小学校の子供達の減少のことを考えておられるのかと思います。たしかに小規模化していますが統合を考える程ではないと考えます）小規模化した学校の良さを充分生かす方向での学校・教育のあり方をも検討してほしいと思います。学校は地域の文化・スポーツの中心という側面をも合わせ持つのではないのでしょうか。</p> <p>小学校は地域の中心であり統合の必要はない。</p>
<p>●財政面についての意見</p> <p>少子化が進む統計を考えてのデータを元にした対応が出来ればと思います。特に予算が必要に成るので町民への負担があり工夫がなければ、ありきではならないかと考えられます。アンケート用紙にあまりお金をかけないようにと…紙質が良すぎと思います。追記）住まいの記入で個人を特定できそうなのが心配ですが…気に成るアンケートを提出します。</p> <p>財政面からの検討も必要ではないか</p> <p>町民が住みやすくないと人が増えない。イコール税金も増えないと思うので、人口を増やす事、若い世代を増やす事を考えてほしい。観光だけにお金を費やしても、税金を納めるお店、人がいなければ無駄遣いになっているのではないか？</p> <p>少子化で学校生活を送る事も大変になってきています。町の他の施設も老朽化していると思います。いろいろな方面を考えて、これから先子供の人口増が望めない場合は、統合と言う考えも良いと思います。金銭的試算等、問題もあるかと思えます。テスト的に一歩踏み出してみたらどうかと思えます。</p> <p>町の人口が減っている中、現実的に税金の中から捻出していくのは厳しいと思います。縮小していくしかないと思います。経費削減を考えて行く必要があると思います。役場職員の人数が多いと言う声をよく聞きます。まずはそこから…。</p> <p>町の財政とのバランスや統合の内容や手順についてOPENに議論してゆく必要が有ると思います。</p> <p>なるべく予算をかけずに計画してほしい。役場を学校施設にして使用するなど、今ある施設を有効活用してほしい。</p>

●その他の意見
高校進学した時に、ある程度人数のいた学校の方が生徒もひけをとらないでいられると思う
長瀬町から高校、大学に行くのは不便なので若い人は他の地域へ出て行ってしまおうと思う。
今の教員の生活を見ていると、ゆとりの時間が少なく、1日中、1年中仕事の事ばかりで気持ちの余裕がなく、他の社会と付き合う時間がなく、片寄った考えの教員が多すぎると思う。その為には、多すぎる報告や資料作成など減らし、仕事の基本である勤務時間を守る為にどうしたらいいかを考えたいと思う。
1. 魅力のある町づくりに真剣に取り組んでいただき、活力のある町にしてほしい(町当局)。人口の増加につながる。 2. 他市町との早急な合併を望む。
田舎の小学校から年が増すにしたがって都会に近づいた時学習の内容について行ける様に密度の高い教育をしてあげると良いと思います。田舎の小・中学校でトップクラスの階級にいた子供も大きな高校に入ったりするとその位置が保たれない場合があるので小さい時からしっかり教育をして欲しいと思います。
難しいと思うが国際大学又は医療関係の学校が出来れば子供達や先生方、町民の将来が明るくなると思う。
頑張ってください。
子供は国家の宝です。この子供達にお金を掛けなければ国家は存続しません。高齢者に対する福祉も大切だと思いますが、これからの日本を担う子供達にお金を使う行政であって欲しいと思います。孫がいるおじより
社会性・コミュニケーションの育成の件、長瀬町での居住年数を考えて申し上げますが、「挨拶」と言うことばを添えると中学生の生徒は男女問わず一人でも三～四人で歩っていても必ず「こんにちは」と声を発してくれます。小学校の生徒は挨拶無しです。私の持論ですが「あいさつ」とは、あかるく・いつでも・さきに・つつけてと言う意です。
・隣接する自治体の小中学校との連携をより密にすることで小規模校のデメリットをある程度緩和することはできないだろうか。 ・樋口駅に出入りする際、踏切だけでなく国道も一緒に渡らなければならないため危険ではないだろうか。町として支援し、二線橋の設置などより良い設備にすることはできないだろうか。
児童・生徒一人一人がその時代の社会体系の中心にいる。決して、一人(孤独)ではない。そのことを知って欲しい。そんなことが学べる教育であって欲しい。誰もが生き甲斐のある人生であるように。
児童生徒の減少なのに昔のままの愛育班など残っていて反対している人もいます。現状を考えて欲しいです。
教育を最優先に考え行事・スポーツなどの団体活動が活発に行える様考えて欲しい。小規模化が進むことにより児童の負担をかけてはいけない。児童が楽しくのびのびとした仲間を作りを考えてあげてほしい。
長瀬町として少子化が進む事がわかっているならなぜ町として少子化を止める政策方針を出さないのでしょうか企業誘致・交通の利便性・共稼ぎ優遇・子育て支援など
少子化が進む中、子供達は町の宝です。子供達がより良い環境で学校生活を送れるよう望みます。
先生方も今、若い世代の人が多いと思いますが…子供と大人(先生という立場の方)の”差”をきちんと学ばせてほしいなあと思う時があります。子供達の発言や行動を見てきて、そう思いました。
俺が小学校の頃は、国粋主義の馬鹿な教員がいて、左利きを右に矯正された為、ヒモのリボン結び等が苦手になり、トラウマで技術家庭、裁縫等が嫌いになった。それは社会に出てからも、ずうっと不利に働く事となった。小四の担任が手の指が一本無い人で、そんな自分でも出来るんだからと、今の小学校では、授業ではまずやらせない危険なカリキュラム、鉄棒や跳び箱、マット運動をさせられた。これは、高校の時の話だが、他生徒に因縁を付けられたので、職員室に報告に行くと、逆に男らしくないと怒られた。だけこの場合、俺が相手を殴った場合も、俺が処分されたのではないだろうか？何を置いても、先生の資質ってのが一番大切だと思うな。
字は忘れっぽくなり下手になりました。最初に断っておきます。私の場合、孫が何になったらよいか考えることはよくあります。好きなこと、自分に合ったことをするのがいいのかなと思います。幼児教育の大切さ、小学校の中学年位までの大切さを考えます。ですから、幼児とか小学校の先生はただいい学校を出ただけという先生はいかがなものでしょうか。心がすかすかでは…。心が上流、体が下流。
・小規模校では、一人一人に対し、きめ細やかな対応ができ、個を大切にした指導ができやすいか？より多くの体験や考えに触れる為には、ある程度人数が有った方がいいと思う。 ・遠くからの通学児童については、スクールバスを活用し、安全を図るべきだと思う。 ・職場体験等の他にも、幼、小、中の交流の場も作り、豊かな人間関係を築いていけると良いと思う。 ・打ち合わせやその内容確認などの下準備で担任の負担が多くなるか？地域住民として、生活科、総合科等に協力していけたら嬉しいです。
時代の必要で対応するしかありません。皆が必要と考える方向で検討下さい。
話が違うけど一小は人数が多く、いじめがあり、二小は少なく、団結力があり、いいなと思っていた。(子供が小学5年の時にいじめにあい先生に相談したが、生徒に話をするから学校にきたりその親にれんらく入れないでほしいと言われ、いじめてる本人に注意しただけであやまりにも来なかった。親にも子供にも)相学校自体、良い印象が持てなくなった。

<p>大変な時期ですので気をつけ頑張ってください。</p>
<p>(小中) 三校の合同運動会実施し、町民に見物させてみる。</p>
<p>若い世帯が住める町。例えば2世帯3世帯への補助や、長瀬町の子供達が地元から通勤できるような補助もあると良い。また、交通の整備。例えば、長瀬の矢那瀬から美里までトンネルを掘り、本庄から新幹線で都内へと通勤できるような道路を整備、確保する。リモートが進む中、観光との融合も視野に入れる。</p>
<p>今若者たちで結婚する人が少なくなって来ている。出会いも交流もないので、仕方がない。若者が参加できるゲームなどを町役場で考えたら結婚して家庭を持ち子供も増えることにつながる。子供を周りの人たちが見回るかたちになることも、安心して子育てができるのだと思います。とりあえずきっかけ作りをサポートして、若者に夢を持ってほしいです。</p>
<p>長瀬町に20年以上住んでいて感じることは、道路が狭くじゃり道が多く、雨が降ると道路が冠水し(袋区周辺)大変な状況になってしまうにもかかわらず未だに整備されていない。又、子供達の遊ぶ公園もなく福利厚生も充実していないため安心して子育てができる町ではないので若者も他市へ転出してしまっている。このままではさらに少子化が進んでしまうため住民の生活環境を整え公園他を充実させて魅力ある町づくりを早急に進めていただきたい。</p>
<p>教育知識や周りの大人の愛情が未来に光を与えます。良い社会教育につながることを祈ります。</p>
<p>近年話し掛けても返事のできない若者が増えています。小中を通じコミュニケーションの重要性を教育してほしい。</p>
<p>長瀬町、観光の町ですが、プラス何かもっと出生数を増やせるといふか、若者が住める魅力のある町、何かあるといいですね。観光も昔から変わらないし…</p>
<p>町民循環型バスにスクールバスの機能をもたせ遠距離通学児童を支援する。登下校の安全に配慮してあげたい。</p>
<p>統合すると通学が大変になる子が増えると思います。それにより保護者の負担も増える。(井戸からの通学すら大変でした。)少子化は仕方ない事なのでそれをなげいて大人の都合に合わせるのではなく子供にとって一番良い方法を、導き出してあげるのが私達の役割だと思います。大規模・小規模に関わらずその子自身の可能性を見出し伸ばしていく教育を望みます。親子三代で長瀬で小中を過ごしましたが本当に素敵な町です。そんな町で育った子供たちはきっと輝く未来を歩むと信じています。</p>
<p>設問自体が問題。少子化は目前に迫っている。いいか悪いかの問題を超えて進行している。それをどうするかが課題だ。小規模化が問題なら町村を越えた学校の統合も視野に入れなければならないだろう。今の交通事情を考えればバスで送迎することが安全でもあり(運転手が不慣れだと危険もあるが)皆野・長瀬中学も空想ではない。(学級編成について)クラスの問題についてなら少人数クラスも必要。英語や数学(小学校高学年の算数)は実力差が出やすいから、習熟度に応じて少人数指導も必要。逆に体育ではサッカー、ソフトボール、ドッジボールなどゲームをしなければ面白みの生まれない球技は2チーム分の人数が必要。科目に合わせたクラス編成が大切だ。細かな配慮をした編成が大事だと思う。一概に「少人数学級が良いか悪いか」というものではないだろう。(アンケートについて)設問が練られていない。教育の問題については経験者(教員の退職者)などの意見を聞くことも必要。さらにいえば町長・教育委員会などに煙たい意見を述べる人にも意見を聞く機会を持たなければならない。多様な意見を聞く中で本当に必要な意見をとれば良い。教育は長い将来を見据えたものだと思う。</p>
<p>アンケート用紙をもらったが回答するのに必要な資料や実体験が乏しく回答に手間取った事は否めない。はるか昔に子供は手を離れたので現在の教育現場の様子は孫や知人などを通じた話でしか知る由もない。なので、地域を歩いて子供達と接触した時に交わす挨拶やその時のちょっとした会話を楽しみながら、子供の今を知るしかない。例えば学校行事の度にいちいち私たちのような世帯に連絡があるでもなし、尚且つスポーツ活動ばかりが目立ち、吹奏楽器の音が聞こえるでもない課外活動のあり方になかなか教育問題に関心を持つのは難しい。数年前に聞いた話だが、小学校で金融機関の関係者を招いて、子供にお金の講義をしたとか、こんな事をするのが今流の教育の仕方なのだろうかとか疑問に思ったことがある。金はあるが心がけない子供に育たないように願うばかりである。少子化問題=小規模学級ということが取り上げられるようになって欲しい。しかし、問題になるのは経済的な課題などが挙げられる一方で本当に子供の立場に立った議論がないのが気がかりだ。この町の財政状況を考えると上記のような議論になるのは避けられないのであろうが歳出入の中身を見れば、もっと違った教育の予算編成ができるのではないだろうか。政者は将来を担う子供達のことをもっと深く考えて欲しいと思う。「大人は子供の友達」という幼児感覚を捨て、大人としての対処をして欲しい。とも思うこの頃だ。</p>
<p>小学校、中学校ともに隣接する秩父市や皆野町の小、中学校の子供や先生達と1wに1回程合同授業を行うなど接点を持たせ(将来は皆野小中学と統合するようになると思うので)皆野へバスで1日通学、秩父で1日通学、又は長瀬へ来校して授業を受けて頂くなどしたら良いではないか。</p>
<p>1. 小中一貫校に向けて秩父鉄道の路線はある程度利用は可能だが、特に現二小の通学区に於いて、スクールバスなどの運行を考えなければならない状況であるので考慮してほしいと思います。 2. 集団でのスポーツ競技(野球、ソフトボール、サッカー、バレーボール、ドッチボール)などのチーム編成は非常に重要な事で、将来のスポーツを通じての人材育成に大変な影響力がありますので充分検討して良い方法を考えるべきだと思います。</p>
<p>バスでの登下校</p>

<p>小中一貫校にすると少人数の中での人間関係が固定化してしまうおそれがある。(長い期間)いじめ問題を考えた場合、それは、好ましくないと思う。 里山留学とか離島留学などでいろいろな経験を1か月・2か月くらいで取り入れていくのはどうだろうか。</p>
<p>教員の負担がふえると思うが使命感をもって頑張ってもらいたいと思います。</p>
<p>小学校6年間を長瀬町で過ごした後、いずれは社会に出て行く中、更なる飛躍を期得なら、私立中も積極的に子供に働きかける様な指導を行ってほしい。町内で中学校3年間過ごすことと、先に町外にでていろいろな経験を早くからさせることで子供の将来の選択肢を広げることができる。</p>
<p>資料中に長寿命化工事、建替費用が40年間で合わせて約49億とあるが、交付金等を差し引いた町の持ち出し、借金は、どの程度を見込んでいるのか。 小中学校の施設が建替平均年数を超えることは以前からわかっていたと思われるが、現在の公共施設整備基金が2億円程度(町のホームページ)で対応できるのか。 町の将来を担う児童生徒の安全、教育の充実を図るため、小中学校の建替えは需要であるが、小中一貫校とする場合、建替場所の確保、財源など課題が多い。 仮に、二小を廃校にする場合、跡地利用、避難場所、地域コミュニティなど、学校教育問題だけではなく多角的に検討していく必要がある。</p>
<p>通学に時間を要する地域がある為、又、児童生徒数の減少の面から統合化やスクールバスの検討はいかがでしょうか。統合による経費削減、スクールバスによる安全な登下校が考えられるように思えます。</p>
<p>子供は国の宝。将来を担う子供に期待して人材育成が何よりも大事。学校教育はその根幹であり根張の良い苗を育てることが、やがて大樹となることを目指しましょう。秩父都市圏内から進学、就職等で外部へ出た時に感じることは、狭い閉鎖社会で暮らしてきたことでした。競走社会の中で生きるためには、基礎体力とも言うべき小中学校の初等教育は、重要であります。次世代への投資と考えても教育環境を整えることが、今の大人たちの重要な役目です。政治にかかわる方、行政に係わる方、もっと知恵を出して下さい。汗をかいて頑張ってください。</p>
<p>教員の負担軽減を考慮出来得ると成れば、少子化が悪い面だけではないと思います。</p>
<p>課題は尽きないと思いますが他市町村の事例などを参考に取組んでいただけたらと存じます。</p>
<p>子供が中学生の時「金がない」「インクがない」等の理由で、社会科の資料がカラーから白黒になり、写真や図が見にくくなったことがあります。せめて学習で必要になるものは、経費削減をしないでほしいです。学校行事において大規模な事をして、お金をかけるのではなく、学習面で生徒に「お金がかかる。」の理由で制限をかけるような事はしないでほしいです。小規模校になったとしても子供の教育の質は落とさないでください。</p>
<p>保育園・幼稚園も含む(将来)一貫校。小さい時から年代別や色々な人に会い、はげまし、傷つき、育つ人間だと思います。家族以外の人間とふれあう必要があるのでは。いじめる子といじめられる子が6年間一緒に生活するのは厳しい。</p>
<p>地域から学校が消えるということは、その地域が寂れるということ。しかし、1クラス10人にも満たないとなってくると、子供にとってもよろしくないのではないかと思います。</p>
<p>24年4月2日から25年3月31日、25年4月1日から26年3月31日まで第二小学校のスクールガードリーダーを夫がやらせて頂き杉郷宮沢の児童達と毎日一緒に楽しく事故もなくその子達が20才を過ぎ今もお会いするとあいさつをしてくれます。良い経験が出来ました事お礼申し上げます。</p>
<p>小中一貫校にする場合、スクールバスを考慮する必要があると思うのですが…一考下されたく思います。</p>
<p>少人数だから「無理だ」と思わせないようにカリキュラムを組むなどして欲しい。</p>
<p>児童生徒数の減少は仕方がない事だと思います。児童生徒数により空いた公共施設は高齢者用施設として利用すればと思います。</p>
<p>近くに学校が無くなり廃校になると校舎はいつまでも有るのはさびしくとも仕方がない事。48人学級で勉強した者に取っては、6・7人位のクラスはもったいない様な気がします。</p>
<p>子供達が楽しく学べるよう考えて下さい。すてきな大人になってほしいと思います。</p>
<p>他の地域でも同様の問題をかかえている町があると思います。統合するにしても、なんらかの欠点不合理が少なからずあると考えられるので他の事例を調査して極力少なくして欲しい。生徒主体で進めてもらいたい。</p>
<p>過疎化が深刻になる現在、今の小・中学生にとっては貴重な人材であり立派に成長して頂き、将来なりターンして町の核になってもらいたい。そのためには、町自身か子供たちに何をしてやる事が重要なのかを考察する事だと思う。これからの時代はAIやコンピューターや5G、6Gなど環境がガラリとかわる。しかしながら人間本来の生き方は変えられないと考えます。一人一人の能力は千差万別です。子供達には自分の興味を持ったもので好きなものをおおいに学んでもらいたい。一例を示せば調理実習でそば打ち体験や餃子作り等々自作パソコンもいいのではないかと。講師はリタイヤした経験者がたくさんいると思います。たくさんのお機会を与えることが重要であると思う。</p>
<p>少人数も良いがお互い切磋琢磨し競い合う事が良いのでは</p>
<p>将来に向けて小学校同士の交流の場を増やし、行事など合同に行うなどしては？どうでしょうか？</p>

<p>広報ながとろ6月1日発行の中に「今後の学校のあり方について」が記載されておりましたが、調査対象以外の町民の意見のアンケートが今回無作為抽出した一世帯の一人です。一般の人の意見も調査してから、広報に結果報告していただきたいと思いました。※私の地区では、小中学校の後援会、会費、在校生がいなくても、応援しております。</p>
<p>長瀬町役場は人口の割に多いのではないかと。もう少し人少なくとも今の仕事くらいでは出来ると思う※すぐやる課を作ってほしい。</p>
<p>長瀬町の今後が非常に気がかりです。</p>
<p>少子高齢化が進んでいることは、社会問題として仕方がないことですが、今、長瀬町に住んでいる子供たちがこれからも住み続けたい、大学などに通うために外に出ている戻ってきたいと思う街づくりをしていただきたいと思います。</p>
<p>人間関係の固定化は、価値観の多様性が失われやすいのが心配だ。幼い頃（考えの固定化前）に多くの価値観に触れておいた方が柔軟な考え方や将来の選択肢が広がるのではないかと。</p>
<p>子供が減っていることであらゆる事がなくなっています。地域のスポーツ大会・子供会の旅行・学校のバス遠足・日帰りのスキー旅行など。子供が減っていても少人数でもいじめがありました。特に転校生、高学年・中学年でも仲間はずれがあった様です。世の中が悪くなり挨拶する子がだんだんといなくなりました。他所から来る方は、長瀬に来ると皆が挨拶してくれると褒めていた頃がありました。上の子と下の子で開きがあり、親の考えも違いがあります。下の子のときは大変な思いもしました。コロナの状況の中で子供が未来に夢・希望をもってほしいと思います。</p>
<p>難しい問題です。できれば統合せず今の状態を維持し、子育て世帯が増えてくれるのが望ましいです。統合し、二小が無くなった場合、若い世帯が二小区域からいなくなってしまうのではと思います。現に二小区域で頑張ってくれている方もいますが商店などもなくなっている状態です。このまま子育て世帯が町内に増えず、子供の数が減少するばかりならば、問7. 1もありなのかとも思いますが…。問6 学校の小規模化の影響は、小さな学校の中でも少ない中でも大切な経験ができると思っています。子育て世代、これからの子供達のために良い方へ向かうようよろしくお願いします。</p>
<p>学校ごとの将来推計を見て、20年後の減少に驚きました。これは、長瀬町だけではないと思います。隣の皆野町の状況も検討して、この際、町を合併して1つの学校に通うことにした方が良いのではないかと思います。</p>
<p>小中校一貫の場合、中学に拠点を置くので一小区域は範囲が広いので電車などを利用しなければならない。小学校統合なら二小からバス送迎が可能になるのではと言う意見が多く聞かれます。</p>
<p>少子化・高齢化となり統合など考える事これはしょうがないと思いますが、同時に若い方がこの町に住みたい、ここで子育てをしたいと思う様な町にする事も大事ではないでしょうか。</p>
<p>長瀬町の人口が年々減少している状態の中での子供さんが少なくなるのは当然のこと。第一に若い人たちが町に住んでいただくよう、町の政治も考えなおす所に来ていると思います。長瀬町の政治と学校教育はつながっていますから。</p>
<p>今の教員は多忙すぎる。スクールサポーターを増やして教育に専念できる様にしてほしい。</p>
<p>就学児をもつ年代から遠ざかると、いま何が学校で必要なのか？がわからなくなります。以前は通学班の子らが集まると賑やかだったものです。今はしーんとし、声もなく集まり、登校していきます。子供達とお喋りしたことはありませんが、見かけると挨拶してくれます。家庭での躰ばかりではなく、学校での教育が行き届いているのでしょうか。これからも良い子たちの学びの場でありませうように。</p>
<p>子供の数が減り地域によっては親の負担が大きいと感ずる。PTA活動も必要だと思うが、もう少し縮小しても良いと思う。現在、コロナ感染症対策のため、色々と活動が中止になっているが、本当に必要な活動なのかを見直すいい機会ではないかと。</p>
<p>今年度はコロナのため、行事ができなかったが、今後、学校全体でさらに交流ができるような機会が増えたとよい。長瀬中、一小、二小全体で出来ることもあれば、子供も楽しいと思う。</p>
<p>子供にとっての教育環境の充実を最優先してほしい。今後の進め方を明らかにしてほしい。先進事例、同様な環境の地域などの情報を提供してほしい。外部（町民以外）の意見を取り入れてほしい。この機会を活用して教育環境を整備して、魅力ある町づくりの柱の一環として進めていってほしい。未来ある長瀬町を楽しみにしている。</p>
<p>仕事をしている方が多いので、役員など保護者の負担が増えるのは大変。地域によっては毎年、支部の役員が回ってくるところもあるのではないかと。かるた大会、ドッジボール大会などのイベントも、やりたい子とその保護者でやる形でよいのではないかと。時代に合わせたやり方を考えて行った方がよいと思う。</p>
<p>皆野町も含めた広域化 週1回程度のオンライン登校 統合は場所的な問題、小中一貫校はカリキュラムのこと、別にわかりやすくしてほしい。</p>
<p>娘二人共、将来は長瀬に住みたいと言ってきている。学校などで一度外に出た後に、働ける場と住むところがあれば、若い人でも戻って来てくれると思う。この町はとっても子育てしやすい町だと思う。</p>
<p>クラスが1クラスだけだと、いじめなどがあつた場合、逃げ場がない。特に低学年34~35人を先生一人では目が行き届かないと感ずる。問題があつたときに解決できない。</p>

<p>小学校では、一小と二小では、児童数に差があり、先生の負担も大きく違うと思う。二小の児童さんの方が学力が高い子が多いと聞いたこともある。やはりきめ細かな指導が行われているのかなと思う。一小に通わせている親ならば、同じ町内で国道沿いに小学校なのに、とても不公平感を感じる。</p>
<p>学校用品店だが、1店舗しかなく、とても不便。品揃えが悪く購入したい数をそろえることが出来なかった。もう1店舗増やして頂くか、学校で購入出来るようにしてほしい。</p>
<p>アンケートの意図が腑に落ちない。学校教育を提供する環境として学校施設の老朽化と小規模校のあり方はそれぞれの課題として捉えてみては？公共施設の老朽化は学校施設に限られず、少子高齢化に伴う包括的な問題ではないか。近い将来、卒業生が納税者になるわけだから。</p>
<p>児童数の減少でPTA等の保護者負担が多いと思うので、今後は負担を少なくすることも保護者の協力を得るためには大事だと感じる。また、統合を進めるのであれば、体操着など指定しているものを減らす、あるいは家計負担にならないよう、金額のかからないものを推奨すべきだと思う。コロナの影響もあり、選択の出来ないクーリーニングしか方法のない制服は不衛生だと私服化を進める地域もある。現代社会において、指定にこだわる必要はないと思う。</p>
<p>隣の皆野町が子育て支援が手厚い印象があるので、それなら皆野に住みたいと思う子育て世帯は少なくないと思う。病院等も少なく買い物するにもお店がないので便利とは言いがたいので、子育てしやすい町ではないと思う。待望の公園も出来たが、少し残念な感じがする。もう少し小さい子が楽しめる物があると良かった。</p>
<p>町内巡回バスを運用して・・・異年齢交流（二小で幼稚園保育園時と低学年、一小で老人ホームなどと高学年などの組み合わせで交流することで、それぞれが役割をもって取り組むことでお互いを尊重しあい、郷土愛を育むことにつながるのでは。または、バスで各校を移動し交流するなど）</p>
<p>小中一貫だと上の強い子が下の子を馬鹿にしたりすることがあったので、一貫にしてほしくない。</p>
<p>コミュニケーション能力はタブレット整備によりリモートで他校や世界と繋がるなど、少人数でもよい教育方法はあると思う。 学校の再編・統合の選択肢もいずれは必要。その際は町のシンボルになるような魅力ある学校づくりをしてほしい。 先生を近くに感じられる・回答をたくさんすることができる・少人数でよいと子供は言っている</p>
<p>二小は児童が少ない上に、保護者はほとんど仕事をしている人が多く役員の負担を減らしてほしい。仕事に影響がでる心配がある。</p>
<p>中学の教育には不信感がある。子供の呼び方が第一小学校では友達同士、先生からも〇〇さんであったのに、中学では〇〇ちゃんや呼び捨て、あだ名（先生が率先して使用している）となっている。すべての先生が言っているとは思わないが、先生が言うのは教育者としていかがなものか。</p>
<p>第一小でクラス替えがなく、中学で初めて2クラスになったが、それでも生徒数が少なく、文化祭・合唱祭での生徒の負担が多いと思う。クラス毎では無く学年毎の発表でもよいと思う。PTA役員の改善をしてほしい。運動会の準備など参加できる役員以外の保護者にも手伝いして頂きたい。</p>
<p>これだけどんどん少子化が進んでしまうと子育てしづらい町になってしまう。 人と人との関わりを大切にしてほしい。自律した人になれるよう地域全体で子を育ててほしい。</p>
<p>問10に関しては難しいと思う。少しでも先生方、子供達、地域住民が納得して安心して学校運営ができるような環境を整えていく十分な準備期間が必要かと思うが、柔軟な対応、対策が不可欠。教育面が充実していれば、移住など、子育て世代も増える可能性があると思う。</p>
<p>今後、児童が少なくなっていく中で、PTA活動、保護者への負担が増えると思う。幼小中とPTAの運営について今後は変化（スマート化）していく方が良いのではないかと。本来、必要最小限の役員改選するなど、スマート化してはどうか。今後のPTA運営について見直しが必要ではないか。町の球技大会、かるた大会なども運営するにあたり保護者が役員をすも人が減ってきている中で、限界がきているのではないかと。</p>
<p>自分の故郷長瀬町、秩父地域の特性を有利に捉え、それを活かせる教育環境づくり、つまり子供自身が「長瀬で過ごせた、長瀬の友達と一緒に勉強ができてよかった、素敵な先生方に出会えて良かった・・・」など、大人になったとき、そんな風に感じられたら良いと思う。</p>
<p>小中一貫校となると、いじめ問題が目につかないばかりか、自殺も考えたりするようにならないか心配だが、人数が増えても減ってもこの課題は変わらないだろうが、先生の負担が大きい。先生の教育が必要な気がします。</p>
<p>遠いお家の子には、バスを出したり子供たちが安心安全で学びや遊びを沢山もてる様な学校づくりをお願いしたい。2つの学校を併せたところで、そこまで大人数となる程でもないで、1人1人をきちんとみていただくことも可能だと思いますし、施設の点検、補修なども1つの方が行き届くことが多いと思います。限りある資源、資金も有効に使って子供たち、年上の方たちによりよい町をつくってほしい。</p>

長瀬町全体としても今後人口減少していくことは、食い止めていきたい課題であると思うが、児童減少の問題を抱えている自治体も多くあると思う。

児童数が増えたほうが良いとは思いますが、少人数をあまり、マイナスにとらえず、少人数、小規模だからできること、メリットを子ども達に伝えていくことで、学校の特色にもなり得ると思う。子ども達も置かれている現状をあまり悲観的に考えず、少数だからこそ、一人一人にしっかり目が行き届くということは親からするととてもありがたいことだと思う。地域と関わる事で社会性、コミュニケーション能力は身につくと思うので、のびのびと恵まれた環境で育ってくれたら、将来いろんな環境、立場になってもしっかり順応する力は身につくのではと思う。

小中一貫の案も出ている中で、幼稚園や保育園とも連携をもっとできるとその子どもの特性などしっかり理解して成長を見守っていくことができると思う。

私自身、人数の多い小中学校で育った。人数が多くてもメリット、デメリットはあるが、楽しく過ごせた。どんな人数でも子ども達を楽しめる学校生活を送れることを願っている。

住民を増やす努力が先かと思う。

高砂団地の様に、学校が近い団地があれば良かった。「この町に住んで良かった」と思える様な町にする。もっと若い人の話を聞く！「昔からこうだから」でよくなるわけがない。

他の地域ではスクールバスがあるところもある。人数が少ないからこそ必要(安全配慮)だと思う。登下校の危険リスクを踏まえて検討してほしい。

・イジメが起こった場合、黙殺せず、内容によっては然るべき期間を利用し、犯罪の場合は警察、うつ病や薬物依存症の場合は医療など、街を挙げて被害者ではなく加害者側の親含む子らの矯正のための環境が整っているのかどうか気になる。

・校則で髪色等の指示(地毛が栗色だったりした時に黒に染める等)や、性別により制服の形や色分けをすることで、子供の人権が損なわれてはいけない。性同一性障害や発達障害などでも障害の多様性を先生も生徒も共に学び、理解できる場が学校であってほしい。

・競うことも高みを目指すためには大切であるが、その競い合いによって運動や勉強が嫌いになってしまったり、生涯において必要な心と体の健康の維持への意識は薄れてしまいかねない。競うことに重きを置くのではなく、生涯を通じて勉強し、毎日適度に身体を動かせるような、環境と思想の構成を優先してほしい。休み時間に友達と遊ばない→本を読む子、花や虫に触れる子等の興味は潰されるべきものではない。人の心を育む場であってほしい。

小中学校の体操服の取扱いを、町内店舗以外でも扱ってほしい。

理由として、店主の方はお客様に対して対応があまりよくないので、小中学校9年間もの間嫌な思いをして買いに行きたくないため。